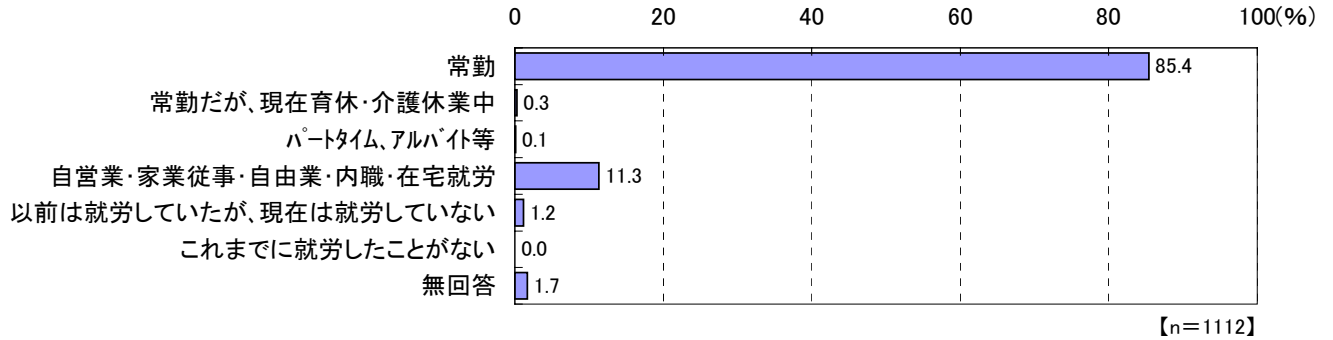


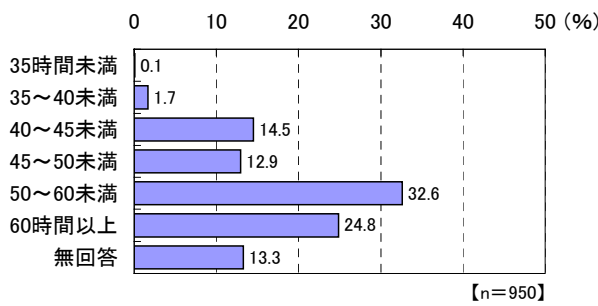
第 2 部 就学児童

第1章 父親・母親の就労状況

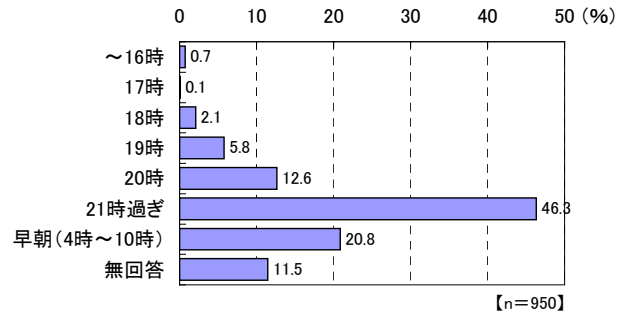
(1) 父親の就労状況 (F7-1(1))



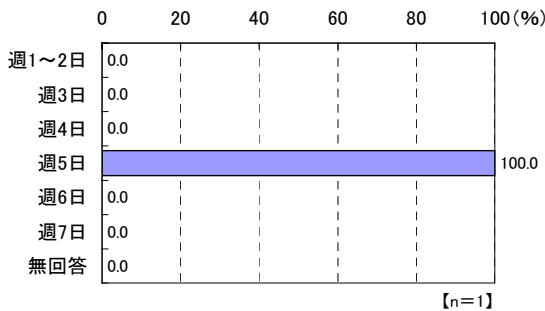
【常勤】 ①1週間の平均就労時間



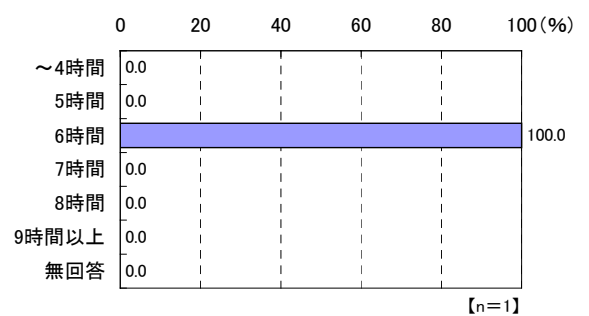
②平均帰宅時間



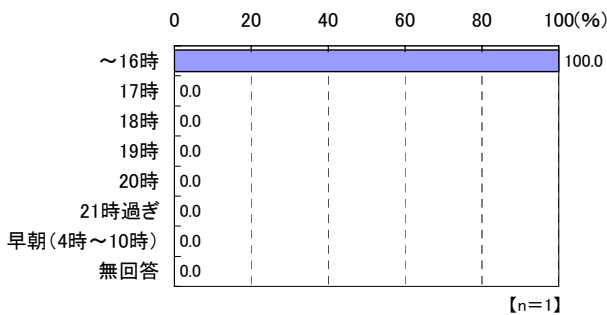
【パート等】 ①1週間の就労日数



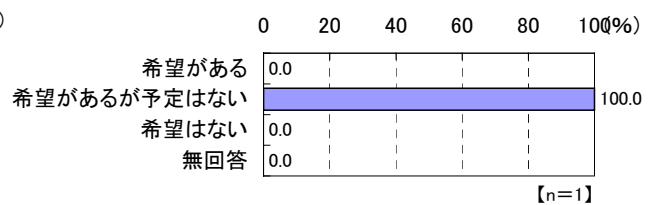
②1日の就労時間



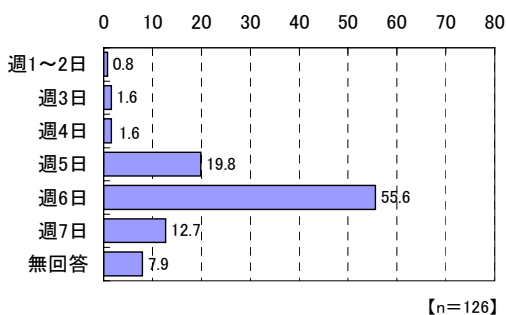
③平均帰宅時間



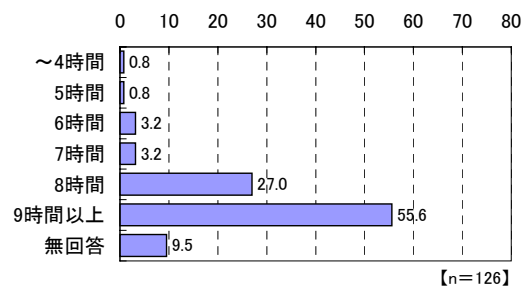
④フルタイムへの転換希望の有無



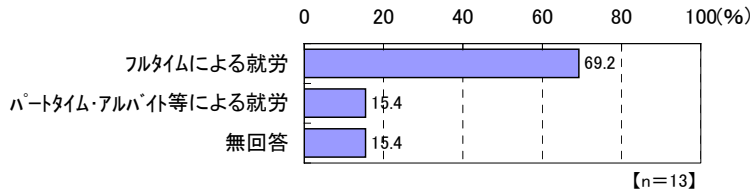
【自営業等】 ①1週間の就労日数



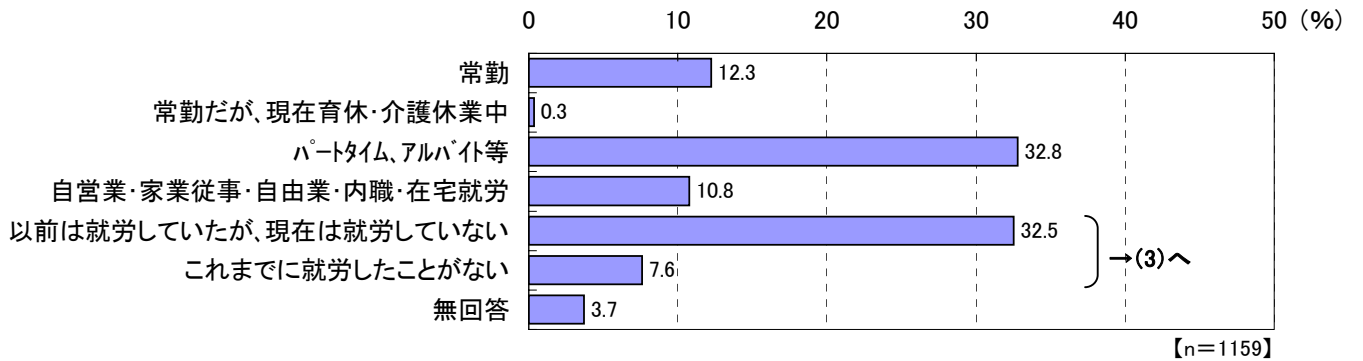
②1日の就労時間(F7-1(1)3)



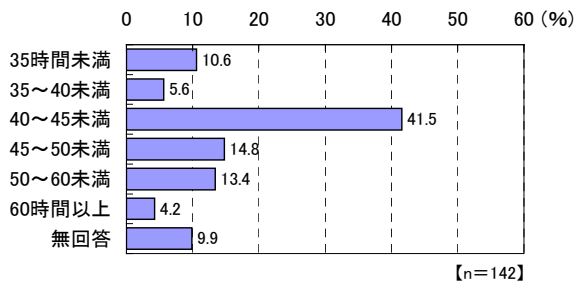
【現在は就労していない】 以前の働き方



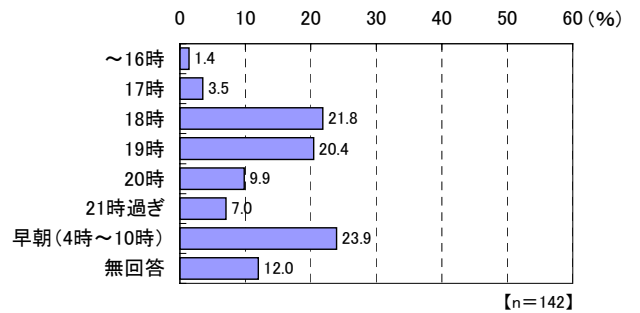
(2) 母親の就労状況 (F7-1 (2))



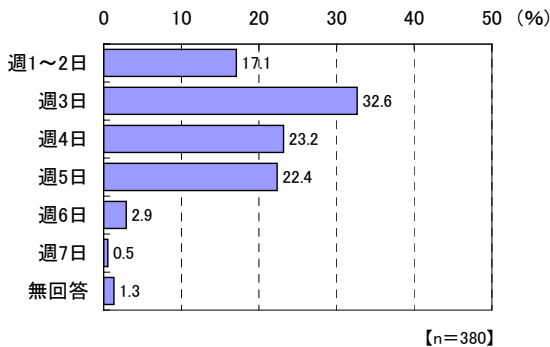
【常勤】 ①1週間の平均就労時間



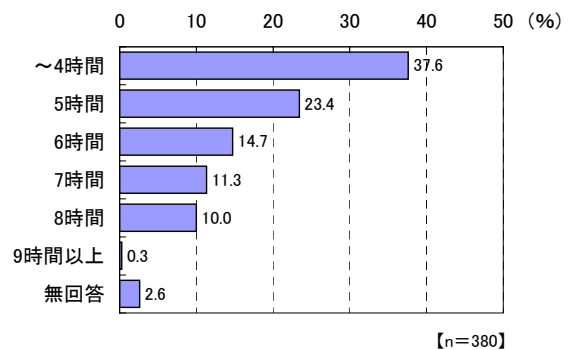
②平均帰宅時間



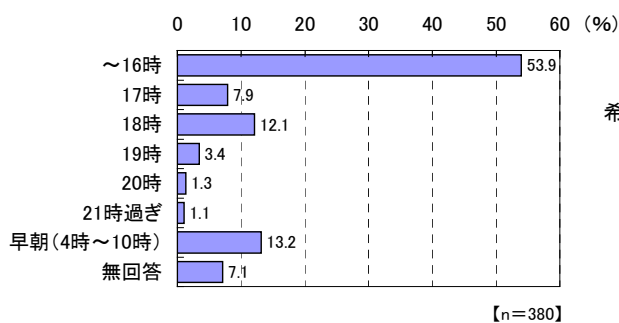
【パート等】 ①1週間の就労日数



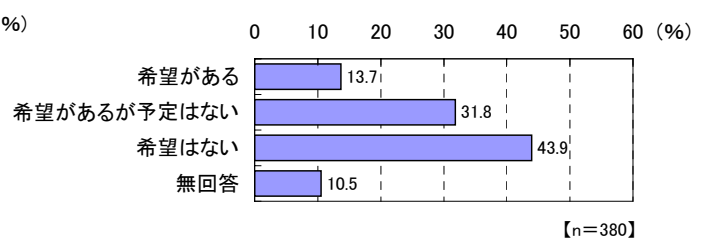
②1日の就労時間



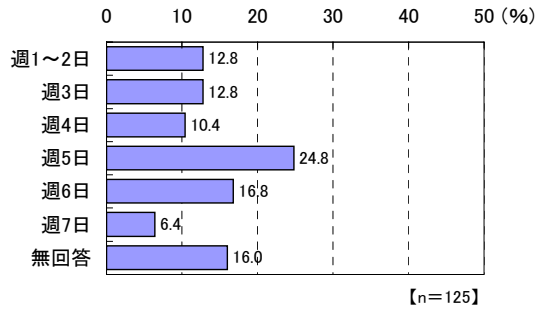
③平均帰宅時間



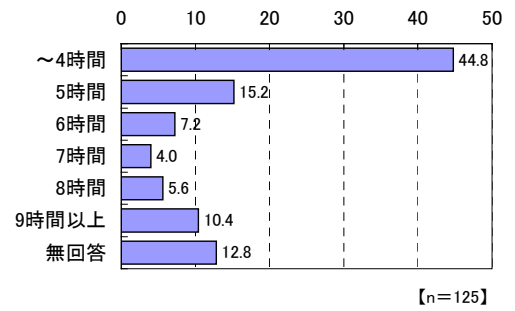
④フルタイムへの転換希望有無



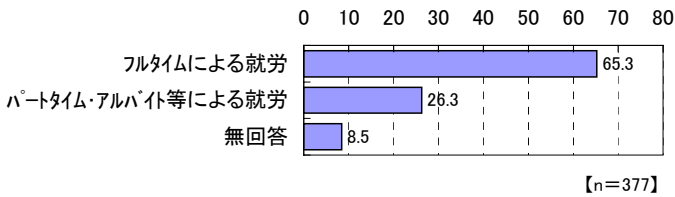
【自営業等】 ①1週間の就労日数



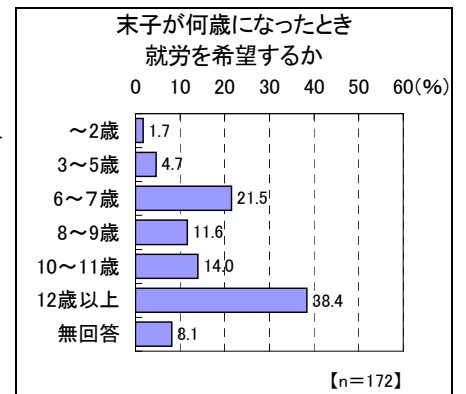
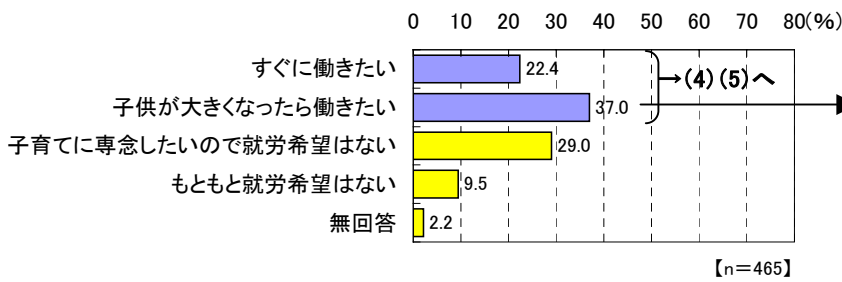
②1日の就労時間



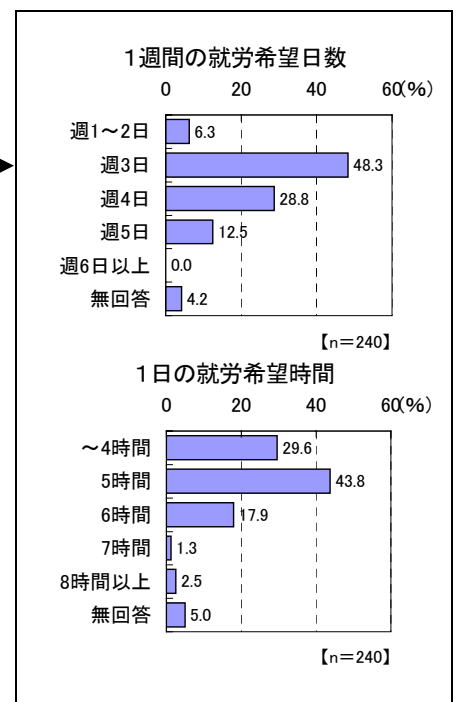
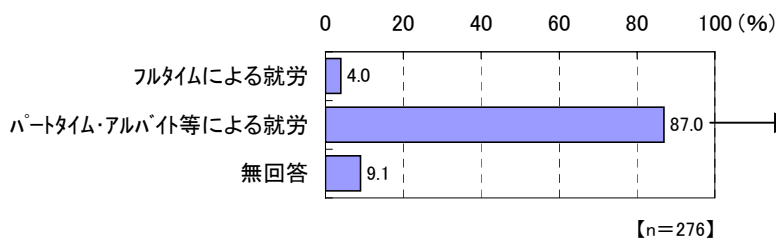
【現在は就労していない】 ①以前の働き方



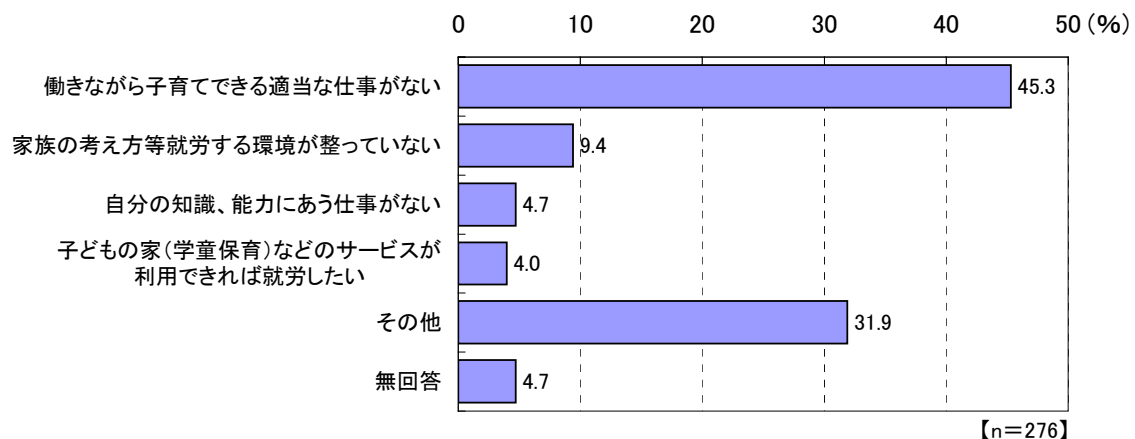
(3) 母親の就労希望の有無 (F7-2(ア))



(4) 母親の働き方の希望 (F7-2(イ))

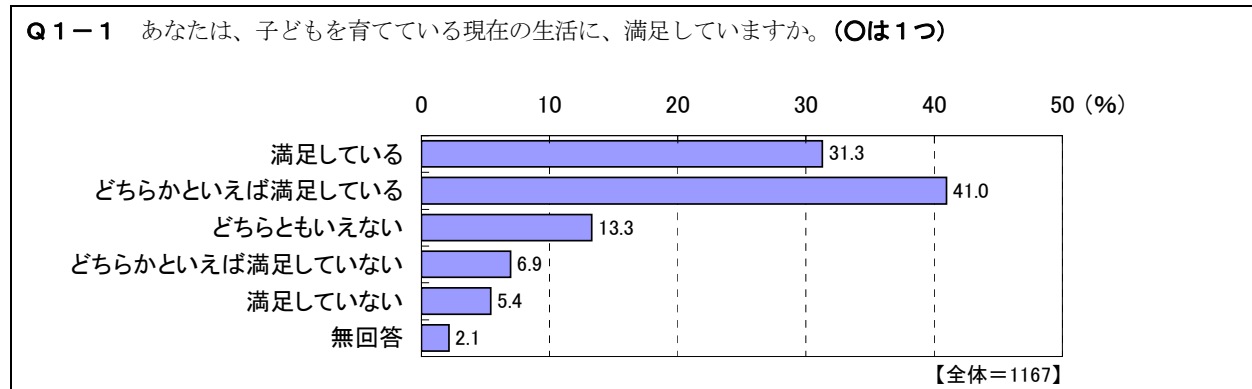


(5) 就労希望がありながら働いていない理由 (F7-3)



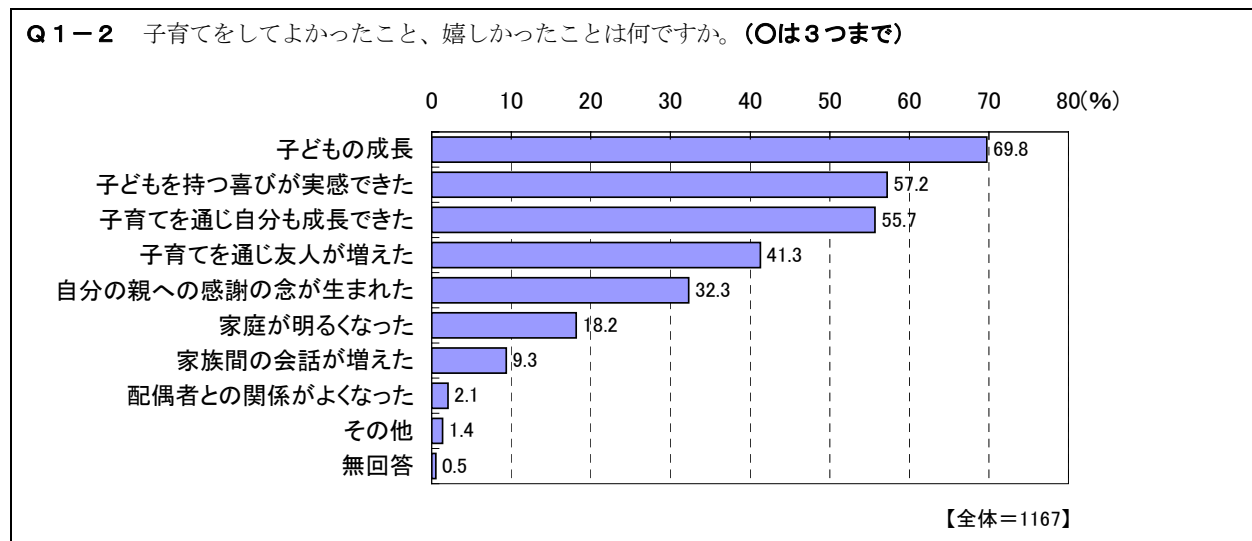
第2章 子育てについての考え等

2.1 子どもを育てている生活の満足度



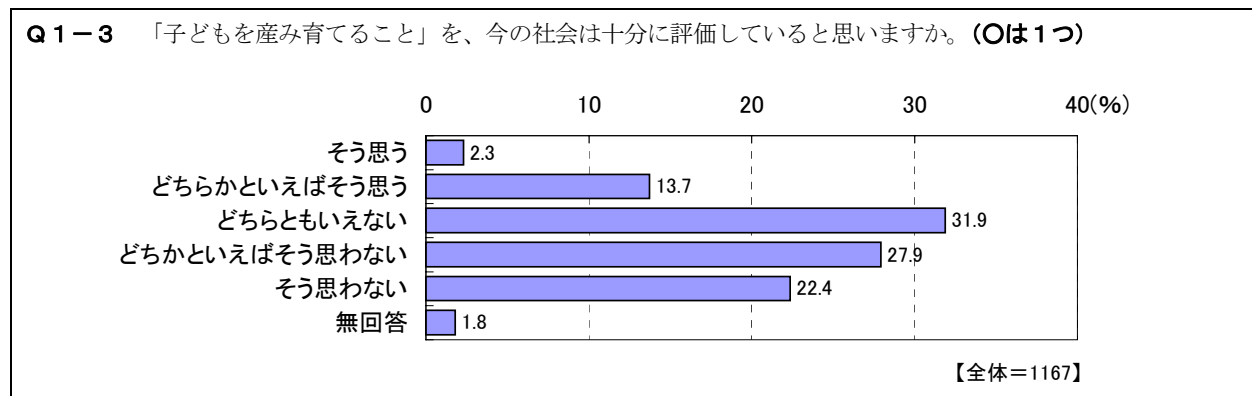
子どもを育てている現在の生活に対して、「どちらかといえば満足している」(41.0%)が最も多く、これに次ぐ「満足している」(31.3%)を合わせた<満足度>は72.3%を占めている。一方、「どちらかといえば満足していない」(6.9%)と「満足していない」(5.4%)を合わせた<不満足度>は12.3%となっている。

2.2 子育てをしてよかったこと、嬉しかったこと



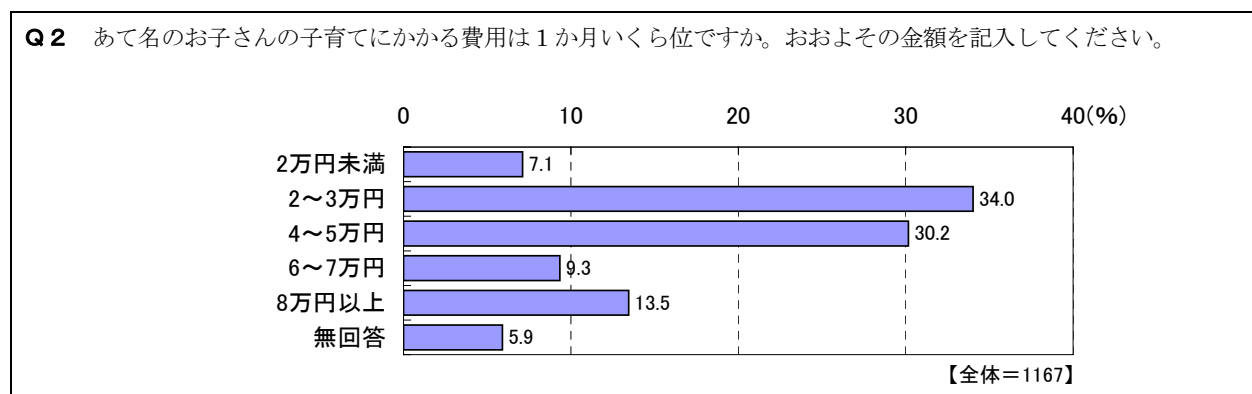
子育てをしてよかったこと、嬉しかったことは、「子どもの成長」(69.8%)が最も多く、次いで「子どもを持つ喜びが実感できた」(57.2%)、「子育てを通じ自分も成長できた」(55.7%)、「子育てを通じ友人が増えた」(41.3%)と続いている。

2.3 「子どもを産み育てること」を社会は評価しているか



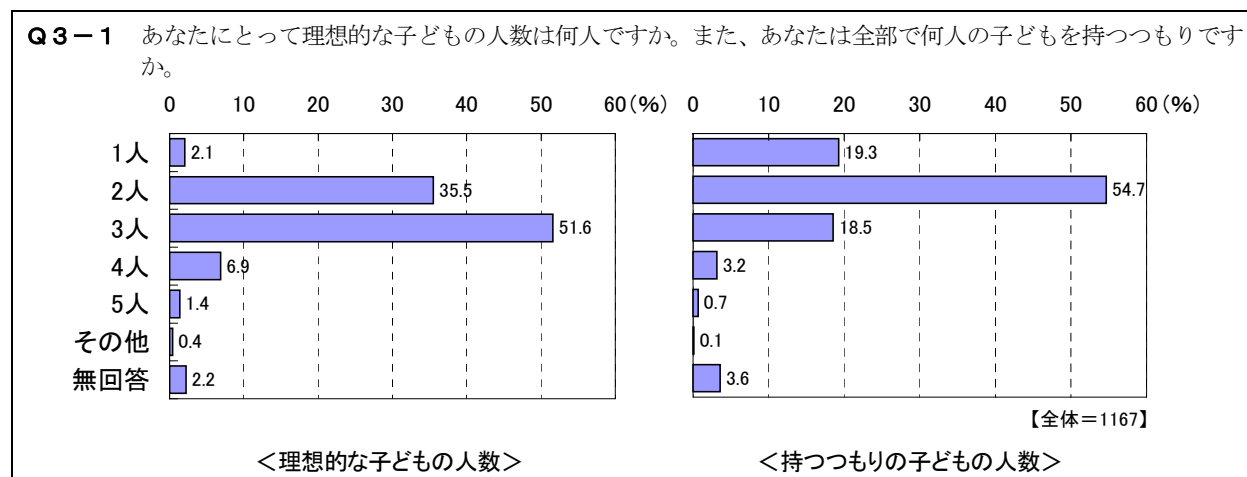
「子どもを産み育てること」を今の社会が十分に評価しているかについて、「どちらともいえない」(31.9%)が最も多く、「どちらかといえばそう思わない」(27.9%)、「そう思わない」(22.4%)の<評価しているとは思わない>が50.3%と半数を超える結果となった。「そう思う」(2.3%)は低い割合であった。

2.4 子育てにかかる1か月の費用



子育てにかかる1か月の費用は、「2~3万円」(34.0%)が最も多く、次いで「4~5万円」(30.2%)、「8万円以上」(13.5%)の順となった。

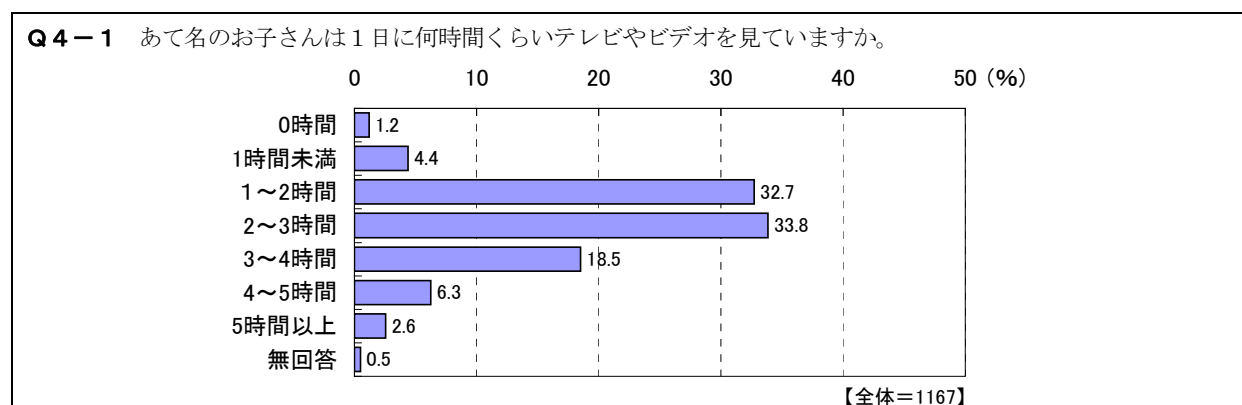
2.5 理想的な子どもの人数と持つつもりの子どもの人数



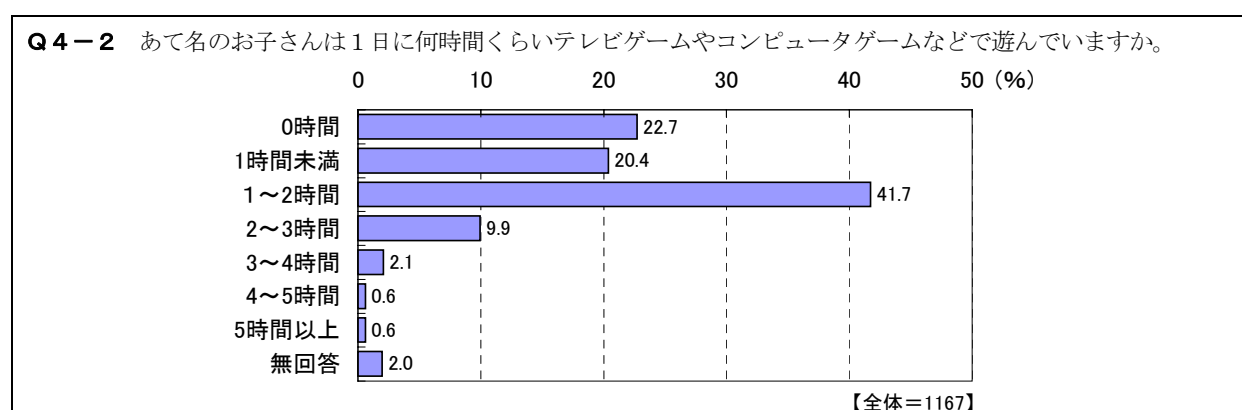
理想的な子どもの人数は、「3人」(51.6%)が最も多く、次いで「2人」(35.5%)、「4人」(6.9%)の順となっている。一方、持つつもりの子どもの人数は、「2人」(54.7%)、「1人」(19.3%)、「3人」(18.5%)の順となっている。

第3章 子どもの日常生活や育児について

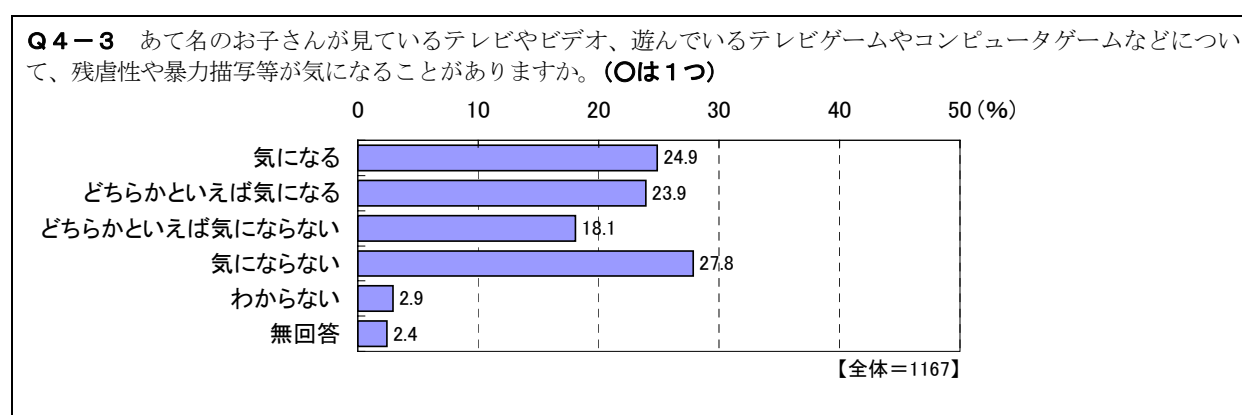
3.1 1日あたりのテレビ・ビデオの視聴時間



3.2 1日あたりのゲームで遊ぶ時間

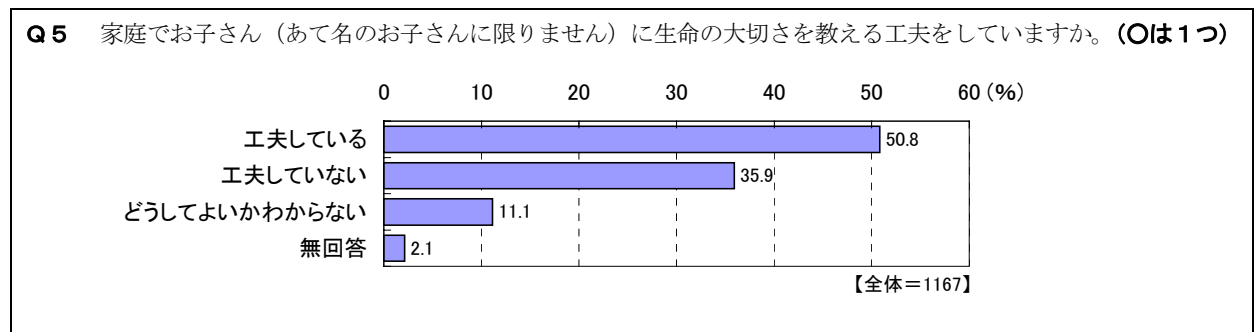


3.3 テレビやゲームなどの残虐性や暴力描写について



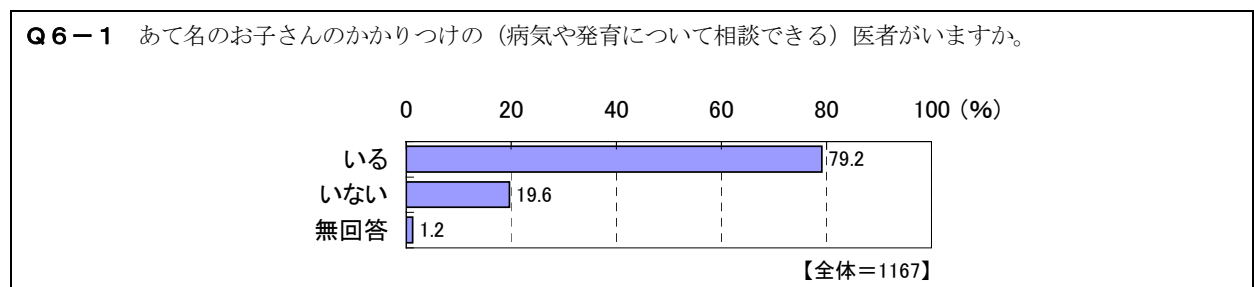
子どもが見るテレビやビデオ、あるいは遊んでいるテレビゲームなどの残虐性や暴力描写等について「気にならない」(27.8%)が最も多い結果となり、「気になる」(24.9%)、「どちらかといえば気になる」(23.9%)と続いた。

3.4 子どもに生命の大切さを教える工夫



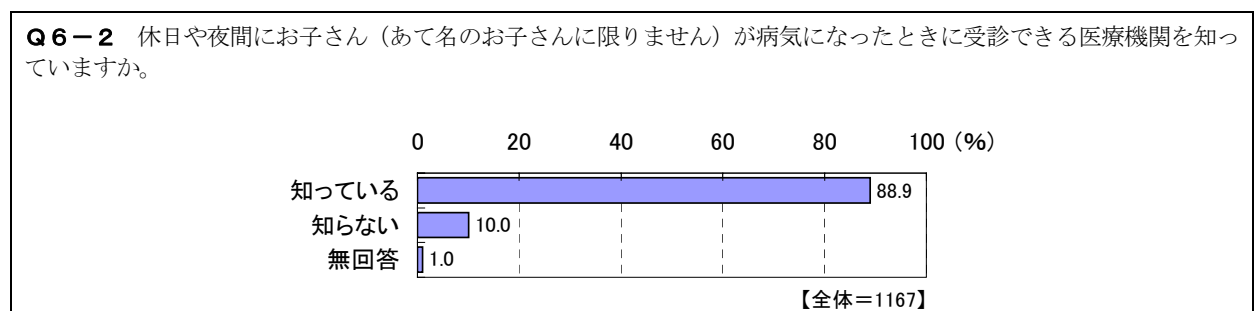
家庭において子どもに生命の大切さを教える「工夫をしている」は50.8%と最も多い結果となった。「工夫していない」（35.9%）、「どうしてよいかわからない」（11.1%）と続いた。

3.5 かかりつけ医の有無



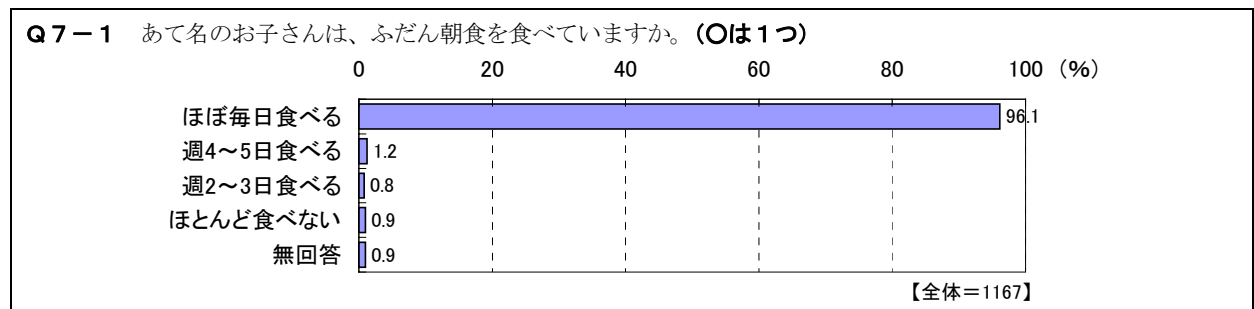
子どものかかりつけ医が「いる」（79.2%）が7割以上の割合を占める結果となった。

3.6 休日・夜間の医療機関の認知度



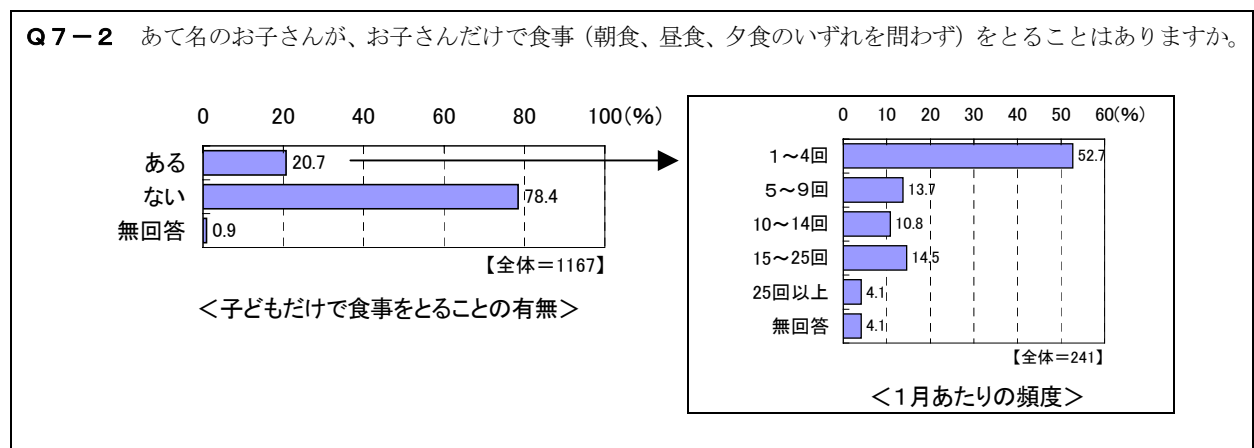
休日・夜間において受診ができる医療機関について「知っている」は88.9%と大きな割合を占めた。

3.7 子どもの朝食の頻度

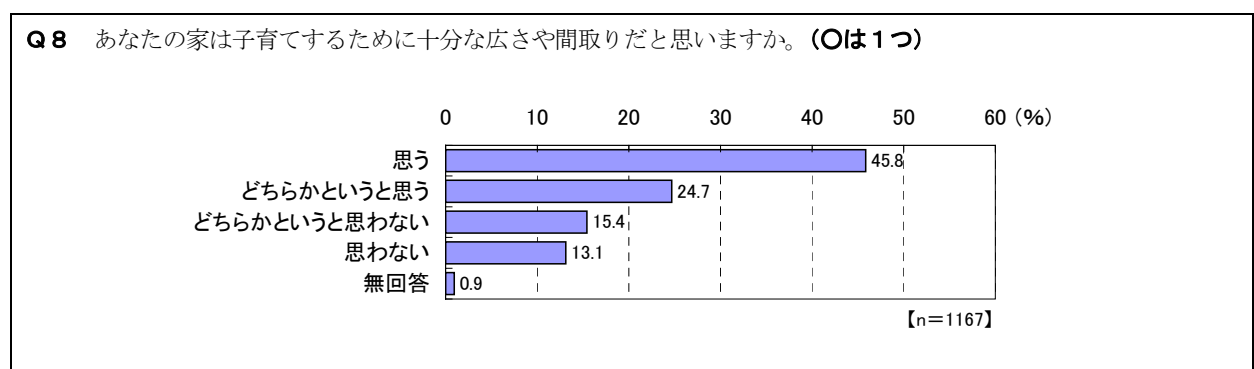


子どもが朝食を「ほぼ毎日食べる」(96.1%) が大きな割合を占めた。

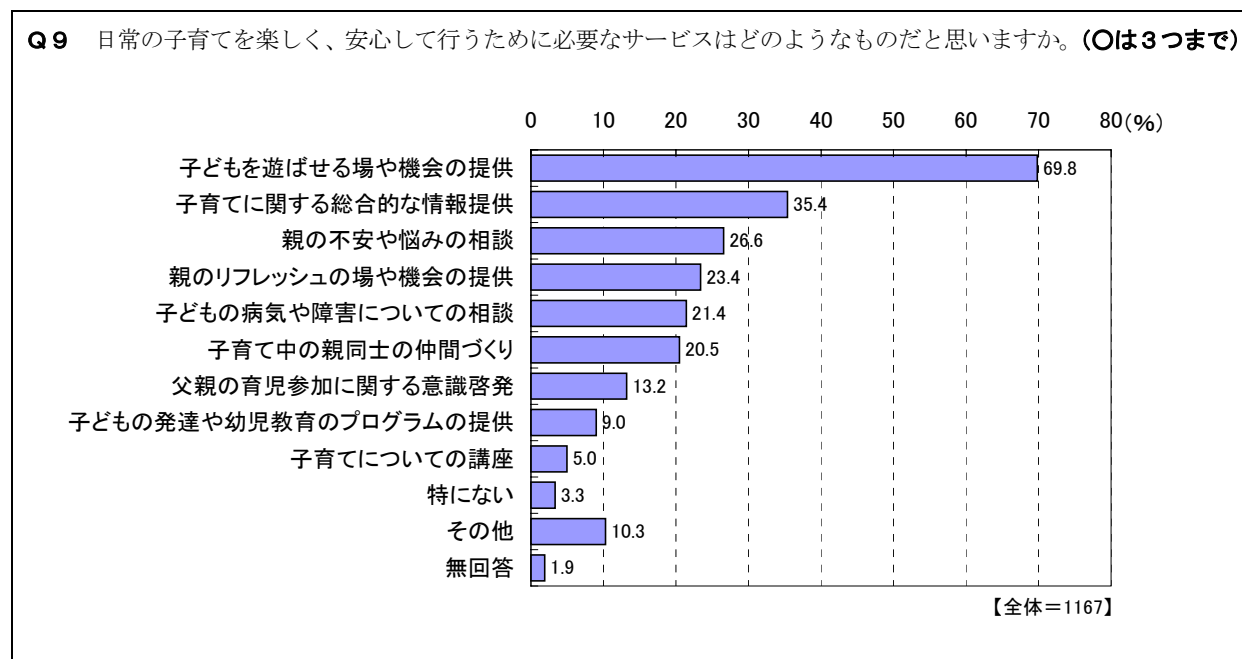
3.8 子どもだけで食事をとることの有無、頻度



3.9 自宅は子育てするのに十分な広さや間取りか



3.10 子育てを楽しく行うために必要なサービス

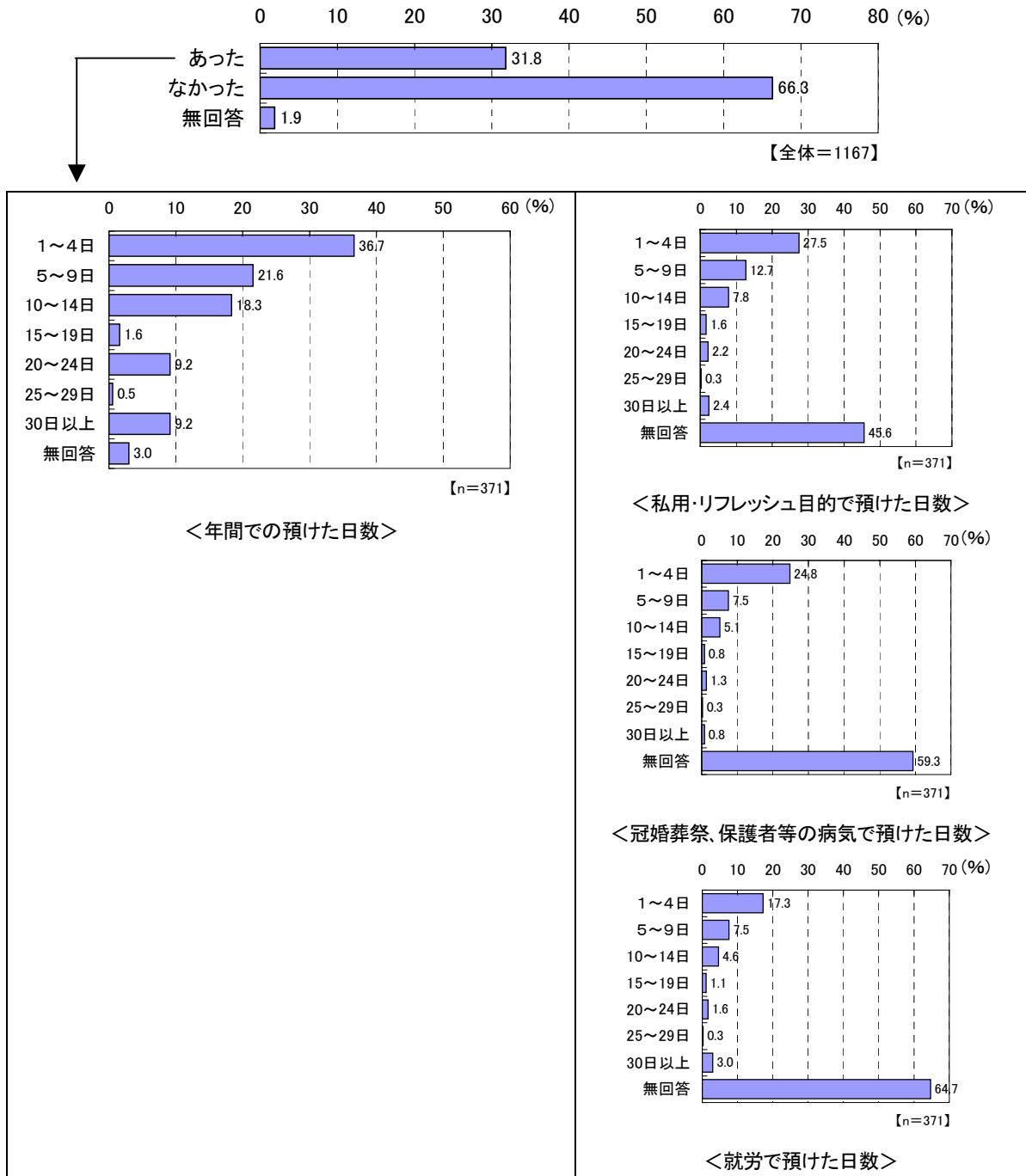


日常の子育てを楽しく安心して行うために必要と思うサービスは、「子どもを遊ばせる場や機会の提供」(69.8%)が最も多く全体のほぼ7割を占める結果となり、以下、「子育てに関する総合的な情報提供」(35.4%)、「親の不安や悩みの相談」(26.6%)、「親のリフレッシュの場や機会の提供」(23.4%)、「子どもの病気や障害についての相談」(21.4%)と続いている。

第4章 家庭の事情等で子どもを預けるサービスについて

4.1 子どもを一時的に預けたことの有無と対処方法

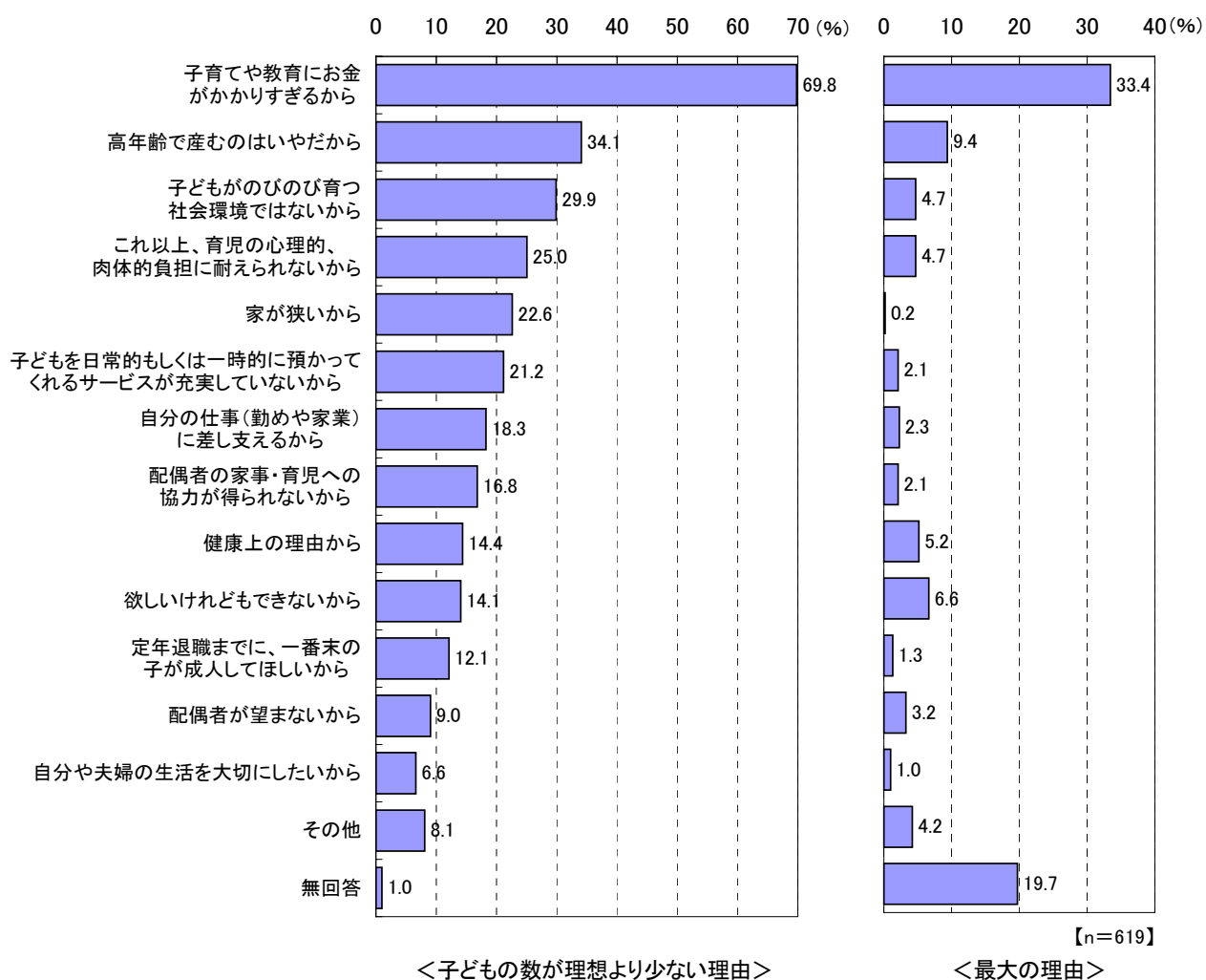
Q10-1 この1年間に、私用（買物、習い事、会合等）、冠婚葬祭、保護者・家族の病気や通院などで、あて名のお子さんを家族以外の誰かに一時的に預けたことがありましたか。（泊まりは除く）



この1年間に、子どもを家族以外の誰かに預けたことが「なかった」(66.3%)が「あった」(31.8%)を上回る結果となった。預けたことがあった場合の預けた日数は、年間で「1～4日」(36.7%)、「5～9日」(21.6%)、「10～14日」(18.3%)の順で、私用や冠婚葬祭、保護者・家族の病気や通院などの際に一時的に（泊まりをのぞく）子どもを預けた経験を有している。

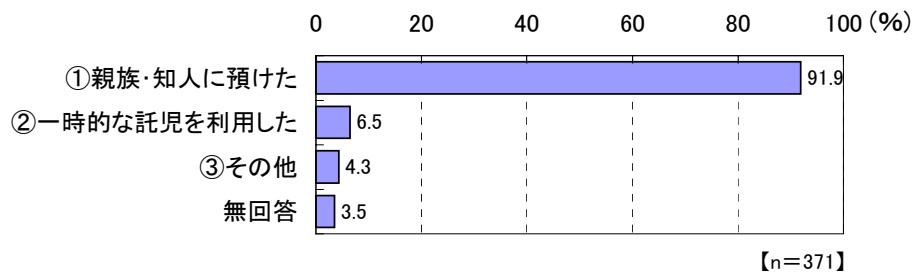
2.6 理想より持つつもりの子どもの人数が少ない理由

Q3-2 前問で「②持つつもりの子どもの人数」が、「①理想的な子どもの人数」より**少ない方**に伺います。その理由はどうしてですか。次のうち、**あてはまる理由すべてに○をつけ、最大の理由には◎をつけてください。**

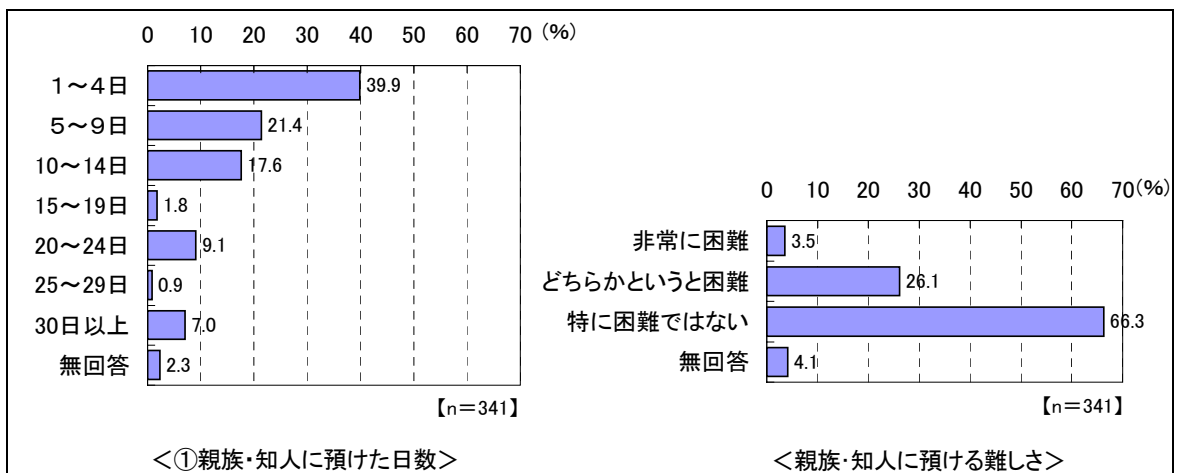


「持つつもりの子どもの人数」が「理想的な子どもの人数」より少ない回答者（該当 619 人）の、その理由としては、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」をあげた回答者の割合が 69.8%と最も多い結果となり、さらに「最大の理由」としてあげた回答者の割合も 33.4%と最も多い結果となった。その他の理由としては、「高年齢で産むのがいやだから」（34.1%）、「子どもがのびのび育つ社会環境ではないから」（29.9%）、「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」（25.0%）と続いている。

具体的な対処方法とそれぞれのおおよその日数について伺います。

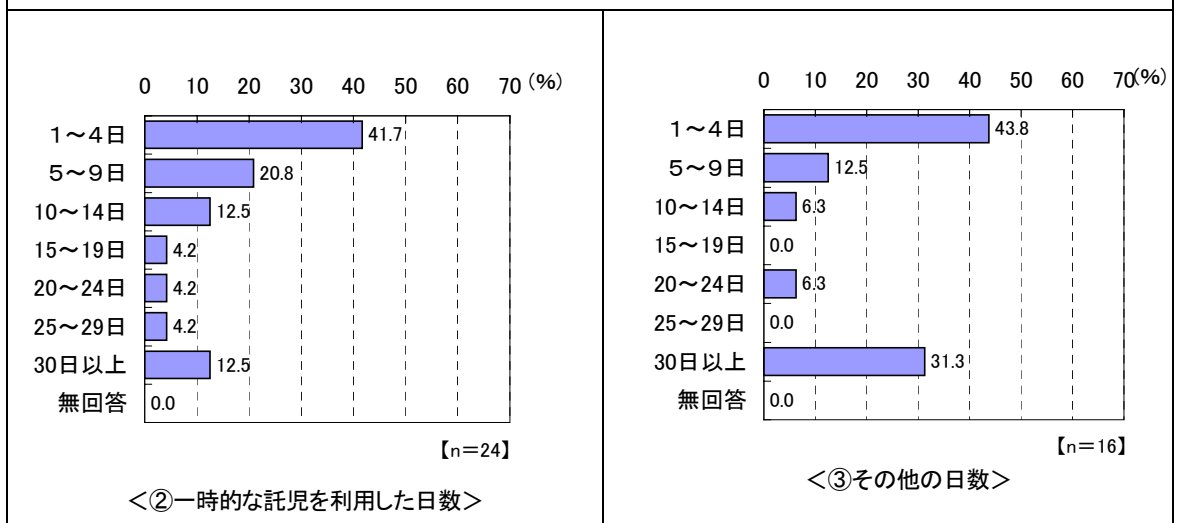


<預けた際の具体的な対処方法>



<①親族・知人に預けた日数>

<親族・知人に預ける難しさ>



<②一時的な託児を利用した日数>

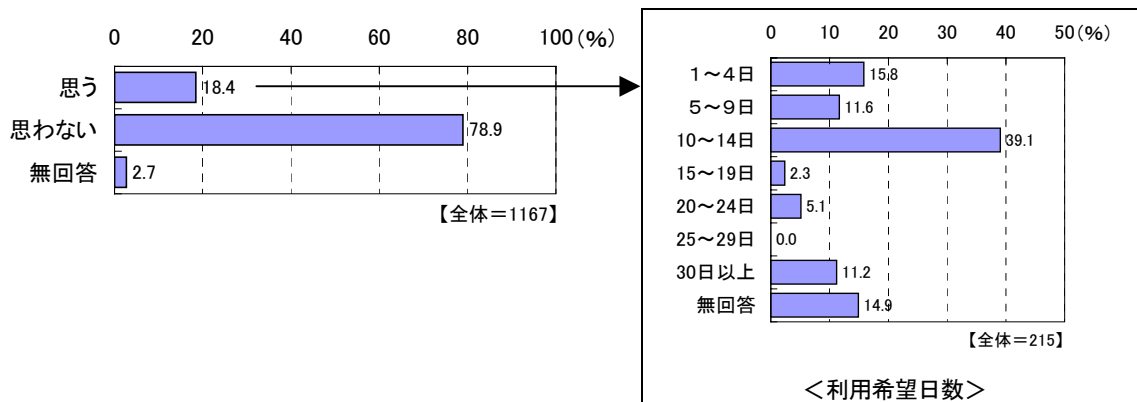
<③その他の日数>

一時的に子どもを預けた具体的な対処方法は、「親族・知人に預けた」(91.9%)が多くの割合を占め、以下、「一時的な託児を利用した」(6.5%)、「その他」(4.3%)と続いた。

親族・知人に預けた日数は、「1～4日」(39.9%)、「5～9日」(21.4%)、「10～14日」(17.6%)、「20～24日」(9.1%)と続き、また、親族・知人に預ける難しさは「特に困難ではない」(66.3%)が多くを占めた。

4.2 今後一時的に預けるサービスの利用意向

Q10-2 あて名のお子さんについて、今後、一時的に家族・親族以外に預けるサービスを利用したい、あるいは利用日数・回数を増やしたいと思いますか。

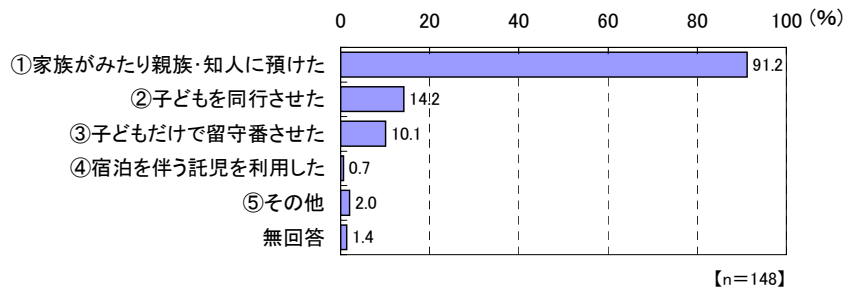
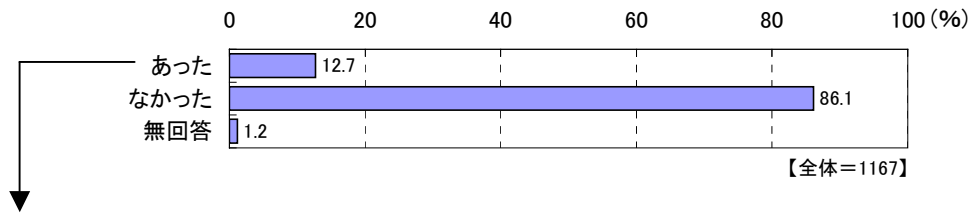


今後、一時的に子どもを預ける保育サービス等の利用意向としては、利用したいと「思わない」(78.9%)が「思う」(18.4%)を上回る結果となった。

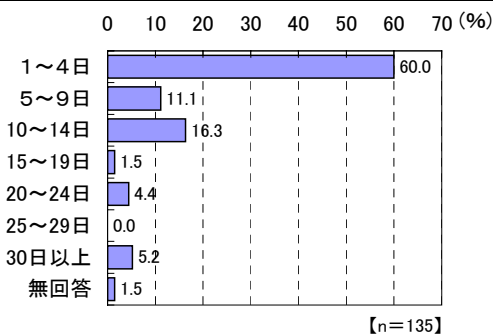
利用したいと「思う」回答者が希望する利用日数は、「10~14日」(39.1%)が最も多く、以下、「1~4日」(15.8%)、「5~9日」(11.6%)、「30日以上」(11.2%)と続いた。

4.3 子どもを泊まりがけで預けたことの有無と対処方法

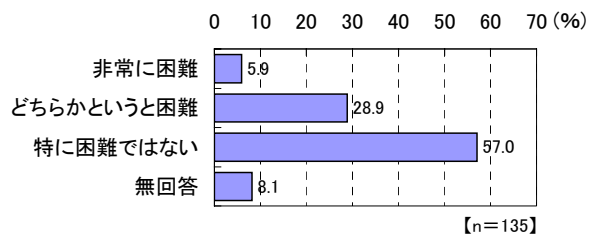
Q10-3 この1年間に、保護者の用事などで、あて名のお子さんを泊まりがけで保護者（両親等）以外に預けなければならないことがありましたか。



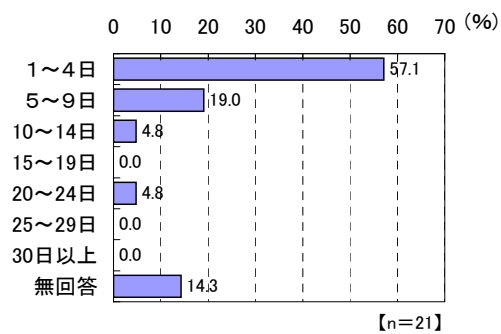
<具体的な対処方法>



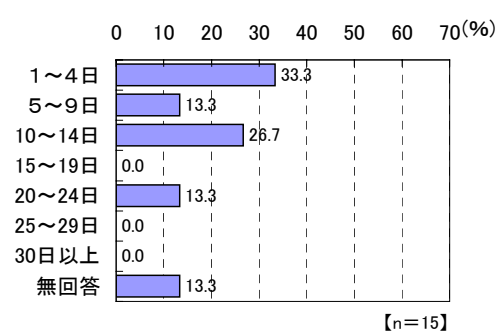
<①家族がみたり、親族・知人に預けた日数>



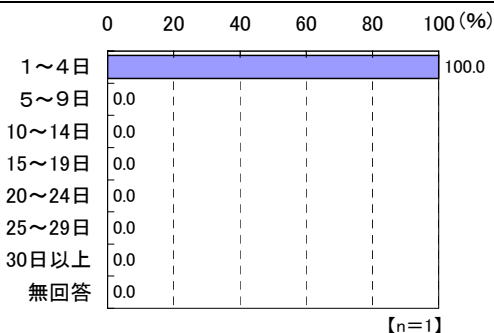
<家族がみたり、親族・知人に預ける難しさ>



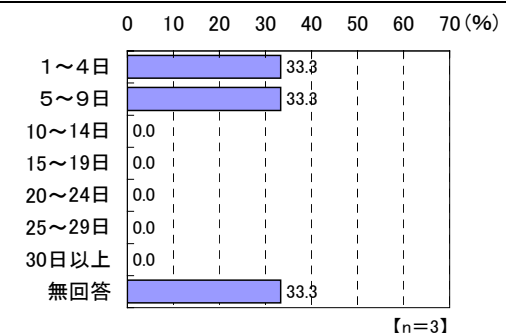
<②子どもを同行させた日数>



<③子どもだけで留守番させた日数>



<④宿泊を伴う託児を利用した日数>



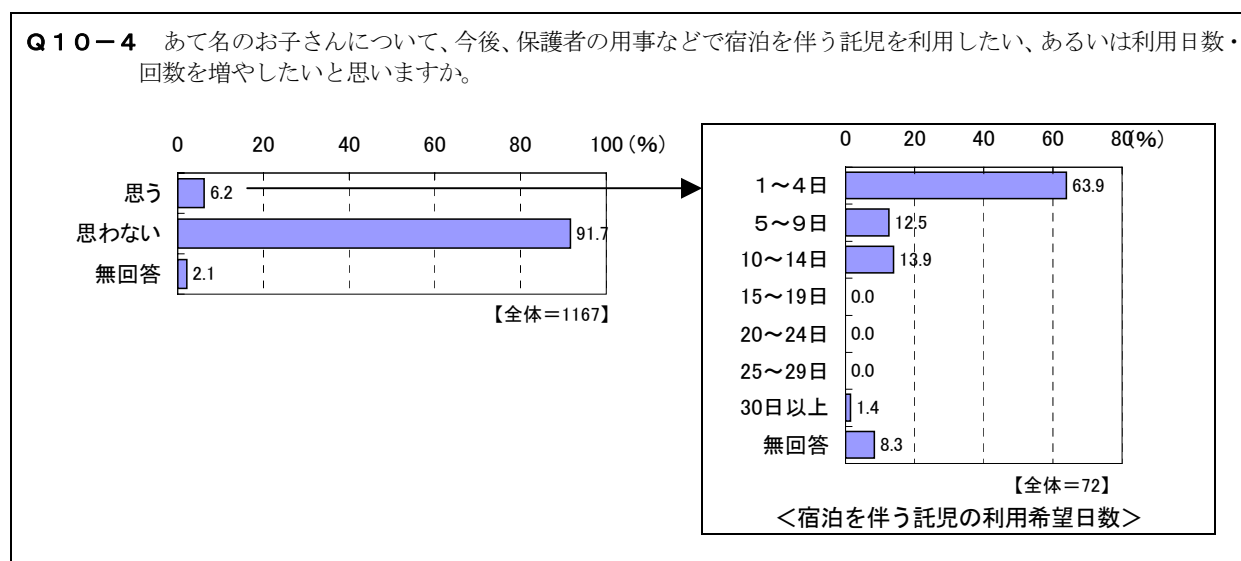
<⑤その他の日数>

この1年間に、泊まりがけで子どもを保護者以外に預けなければならないことが「なかった」(86.1%)が多くの割合を占め、「あった」は12.7%にとどまった。

具体的な対処方法としては、「家族がみたり親族・知人に預けた」(91.2%)が最も多くの割合を占め、以下、「子どもを同行させた」(14.2%)、「子どもだけで留守番させた」(10.1%)等と続いている。

家族がみたり親族・知人に預けた日数は、「1～4日」(60.0%)、「10～14日」(16.3%)と続き、また、家族がみたり親族・知人に預ける難しさは「特に困難ではない」(57.0%)が比較的多くの割合を占めている。

4.4 今後泊まりがけで預けるサービスの利用意向



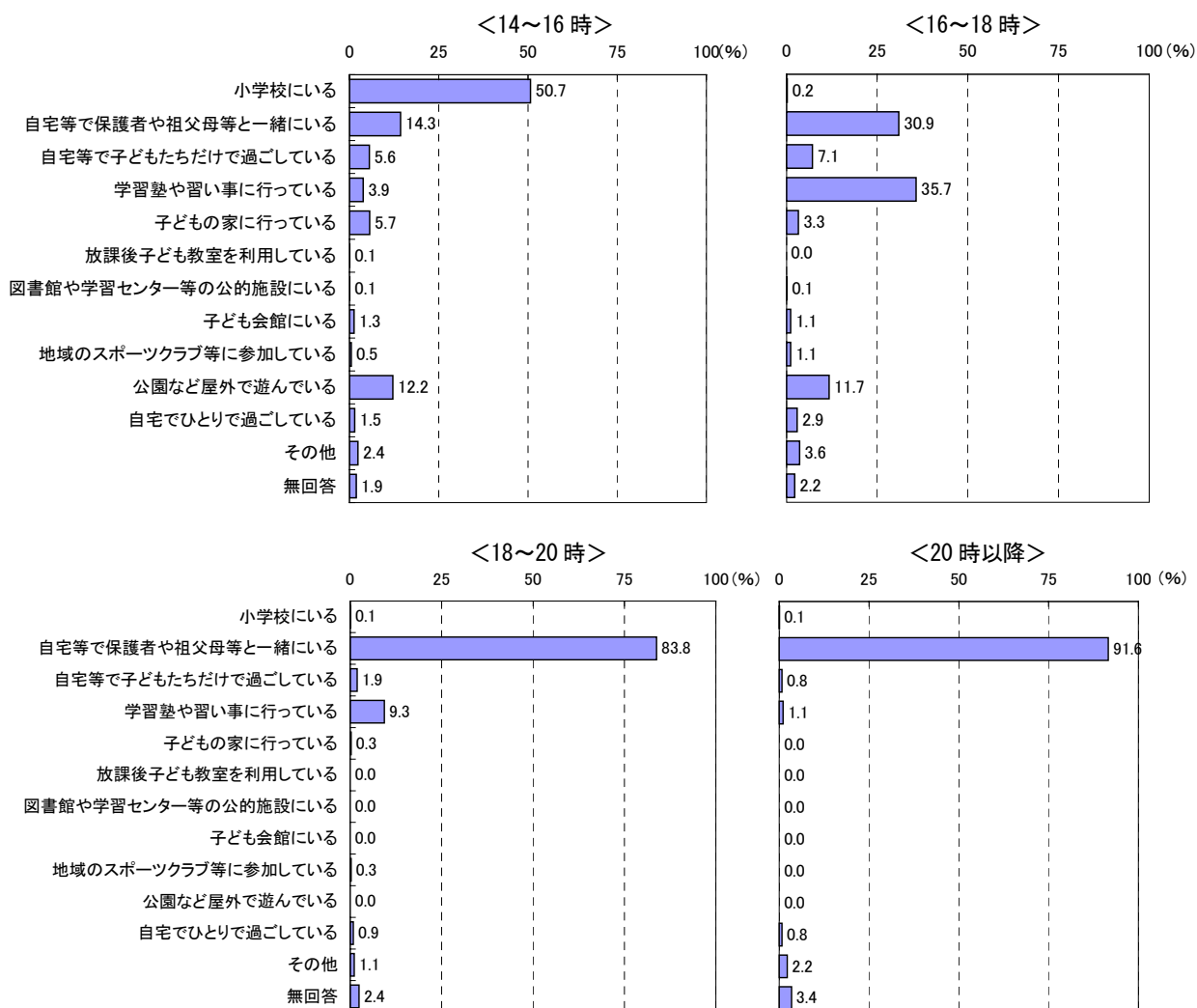
今後、泊まりがけで子どもを預ける保育サービス等の利用意向としては、利用したいと「思わない」(91.7%)が大きな割合を占める結果となった。「思う」(6.2%)は少ない結果となった。

利用したいと「思う」回答者が希望する利用日数は、「1～4日」(63.9%)が最も多く、以下、「10～14日」(13.9%)、「5～9日」(12.5%)、「30日以上」(1.4%)と続いた。

第5章 子どもの放課後や休日の過ごし方

5.1 放課後の過ごし方

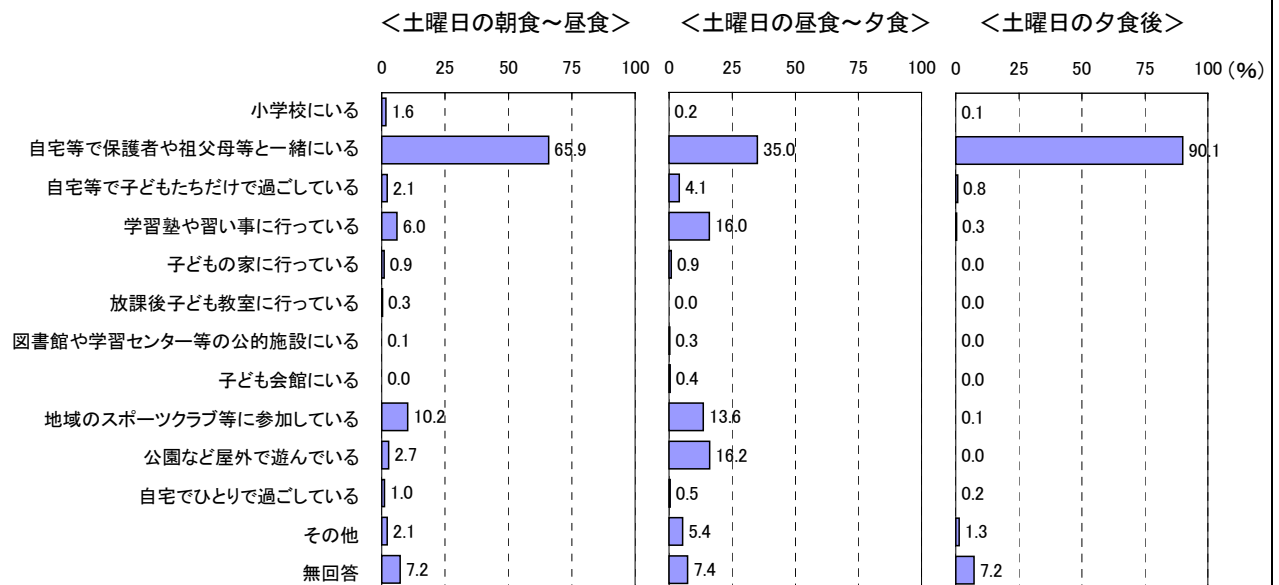
Q11-1 平日の放課後、あて名のお子さんとはどのように過ごしていますか。時間帯ごとに一番多い過ごし方を表から1つつ選び、その番号を記入してください。



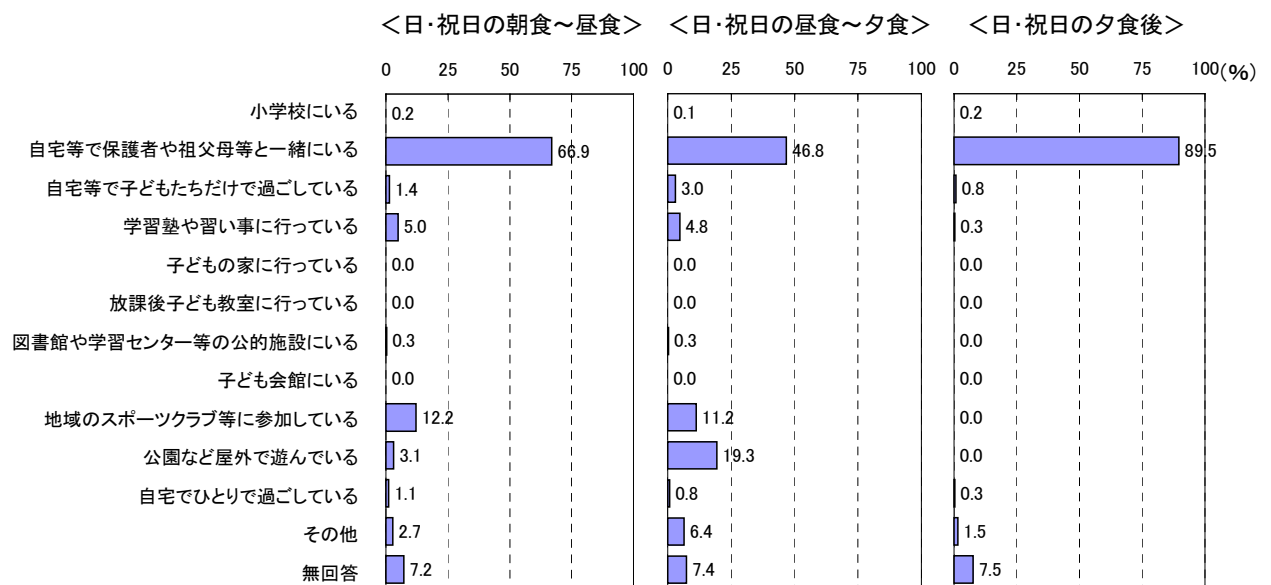
【全体=1167】

5.2 休日の過ごし方

Q11-2 学校が休みの土曜日や休日（日・祝日）、あて名のお子さんどのように過ごしていますか。時間帯ごとに一番多い過ごし方を下の表から1つずつ選び、その番号を記入してください。



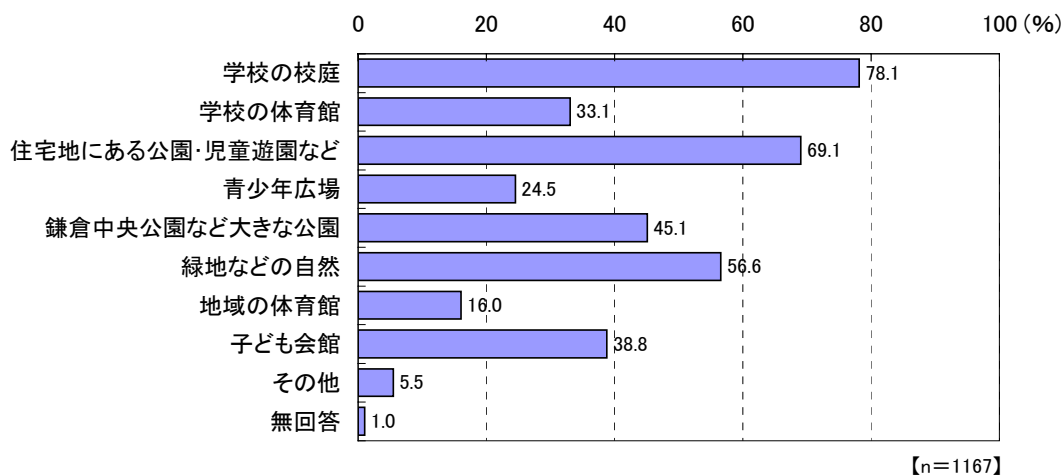
【全体=1167】



【全体=1167】

5.3 子どもが遊ぶ場所として望ましいと思う場所

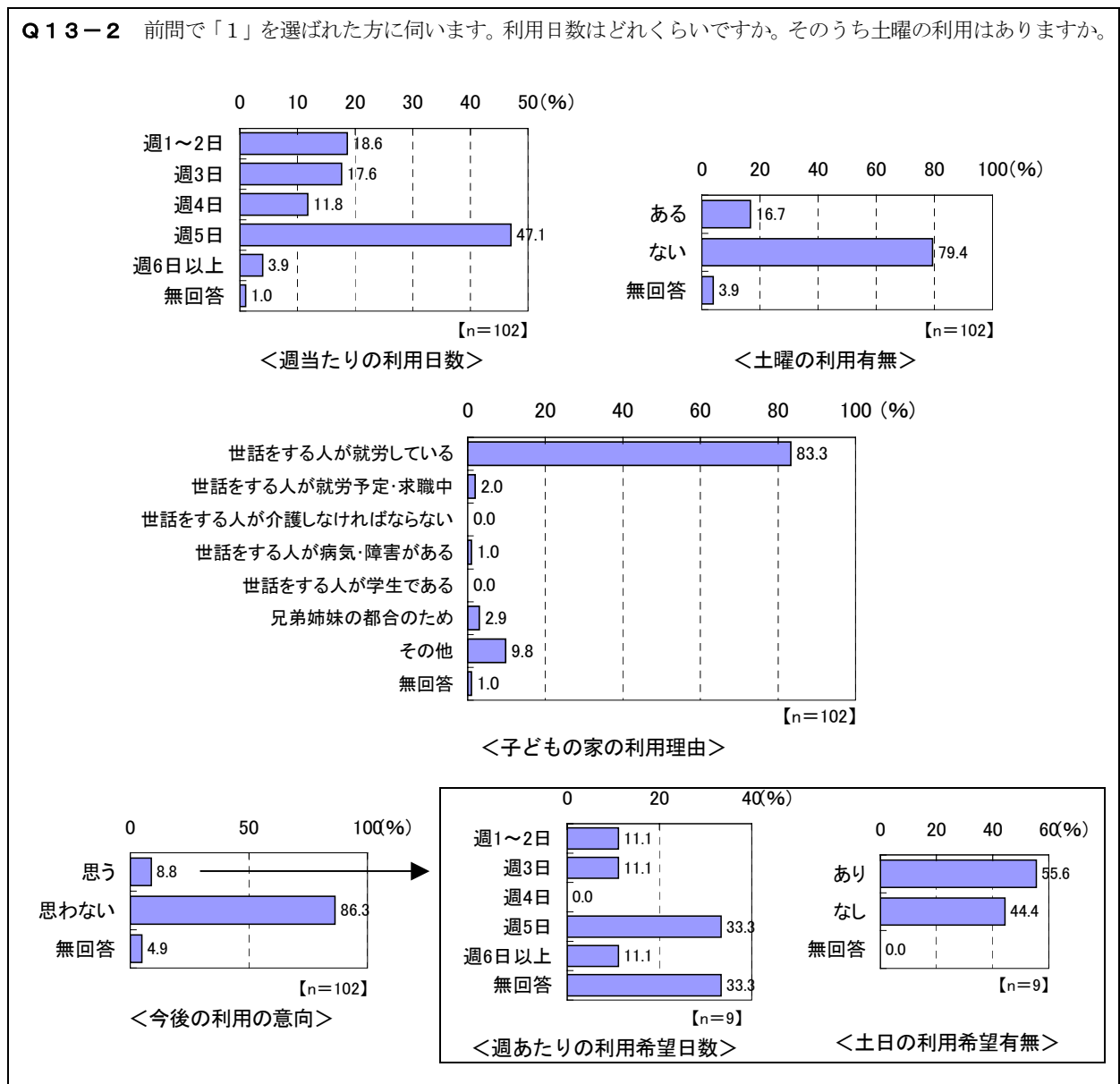
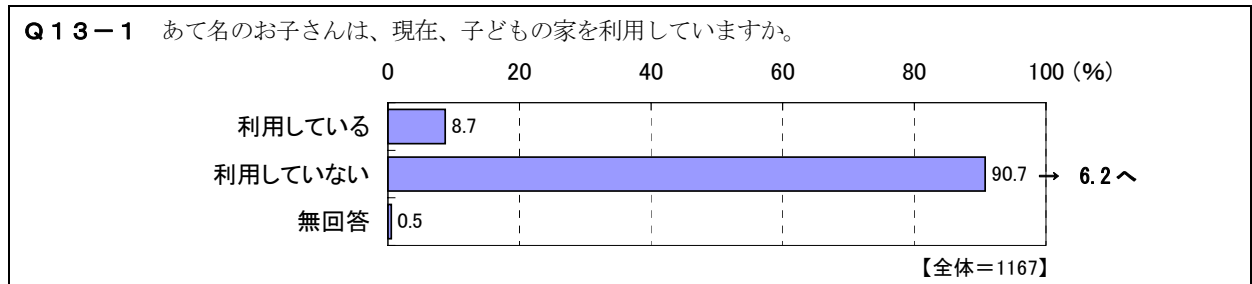
Q12 子どもが遊ぶ場所として、あなたが望ましいと思う場所はどこですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。



子どもが遊ぶ場所として望ましいと思う場所は、「学校の校庭」(78.1%)が最も多く、以下、「住宅地にある公園・児童遊園など」(69.1%)、「緑地などの自然」(56.6%)、「鎌倉中央公園など大きな公園」(45.1%)、「子ども会館」(38.8%)と続いた。

第6章 子どもの家（学童保育）や育児に関するサービスの利用等について

6.1 子どもの家の利用状況



子どもの家の利用状況は、「利用していない」（90.7%）が多くを占め、「利用している」は8.7%（1167人中102人）であった。

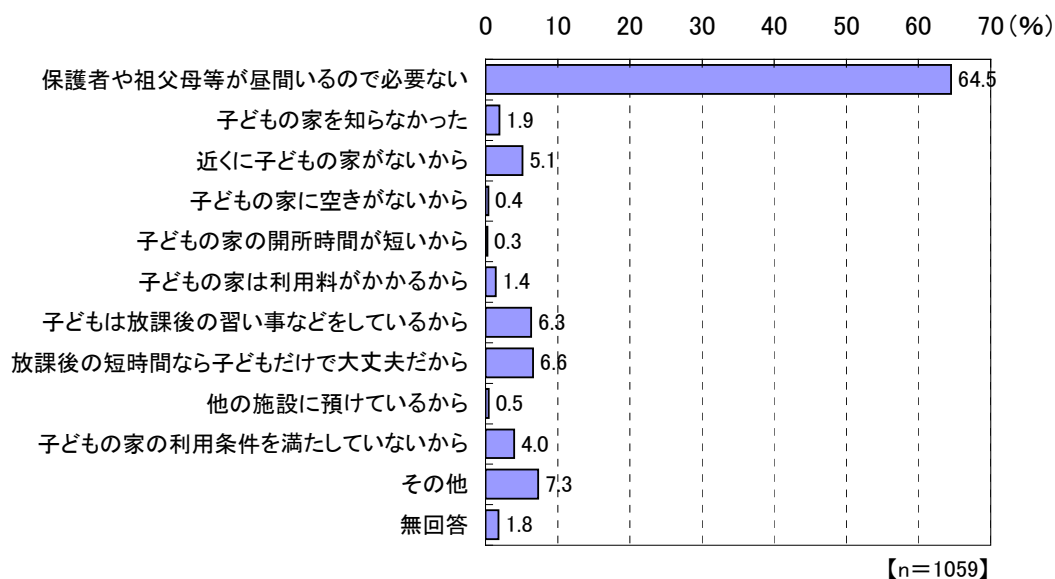
利用している回答者の、1週間あたりの利用日数は「週5日」（47.1%）が最も多く、以下、「週1~2日」（18.6%）、「週3日」（17.6%）、「週4日」（11.8%）と続き、利用者は比較的高い頻度で

子どもの家を利用している。土曜の利用は「ない」(79.4%)が「ある」(16.7%)を上回っている。利用する目的は、「世話をする人が就労している」(83.3%)が多くの割合を占めた。

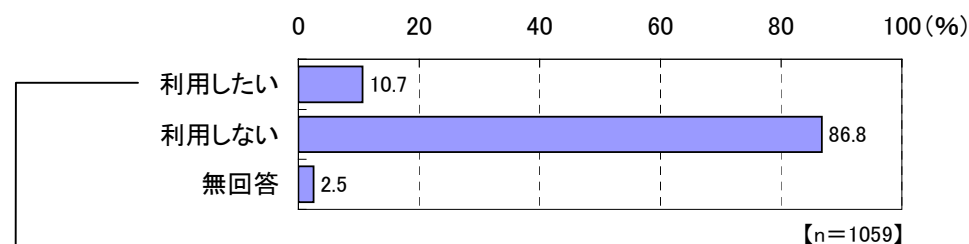
また、今後の子どもの家の利用の意向としては、利用を増やしたいと「思わない」(86.3%)が多い結果となった。

6.2 子どもの家を利用しない理由

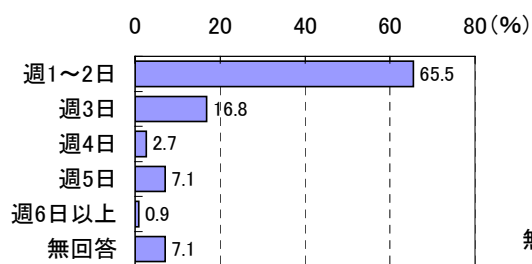
Q13-3 Q13-1で「2」を選ばれた方に伺います。その主な理由は何ですか。(〇は1つ)



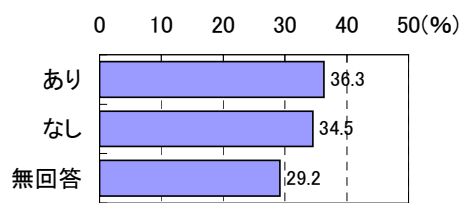
<子どもの家を利用しない理由>



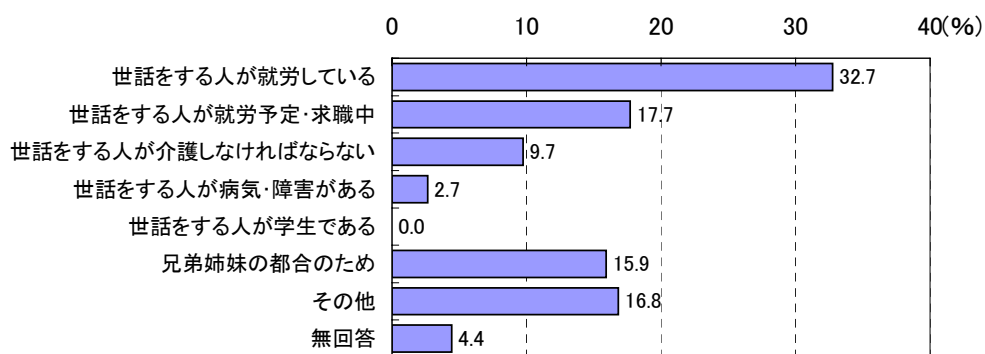
<今後の子どもの家の利用意向>



<利用希望日数>

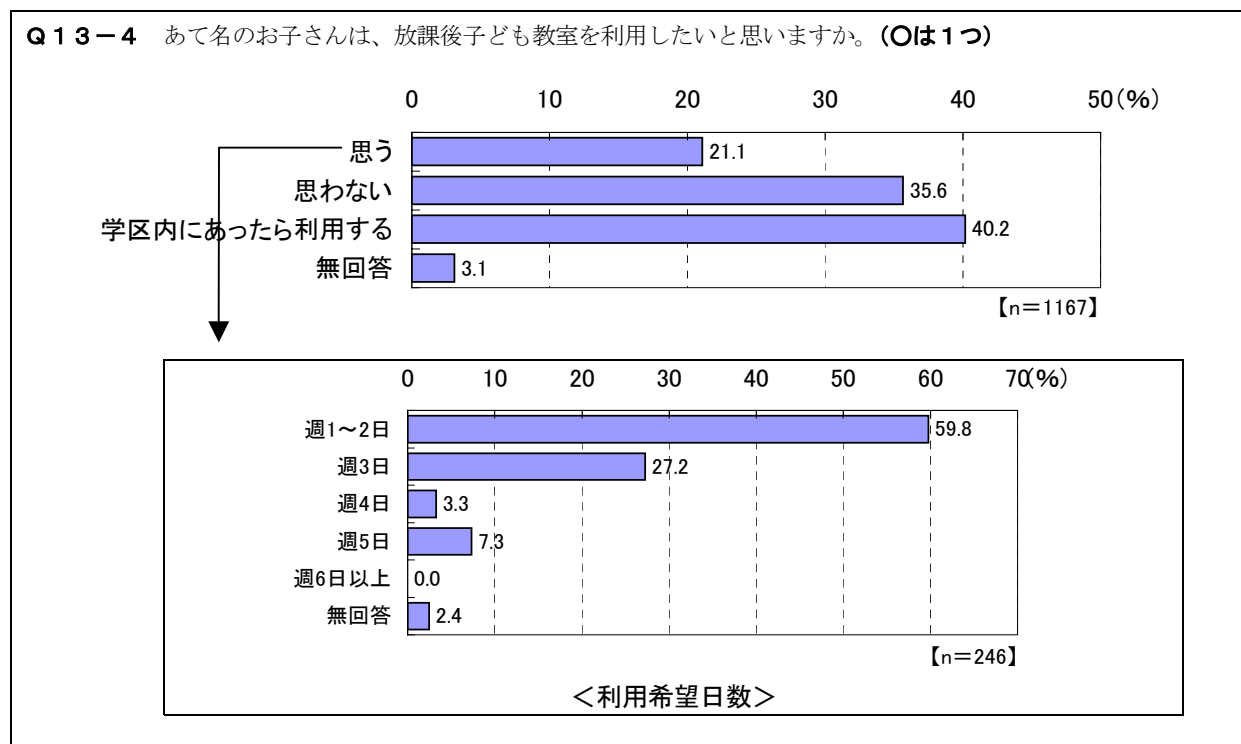


<土曜日の利用希望>



<利用したい主な理由>

6.3 放課後子ども教室の利用意向



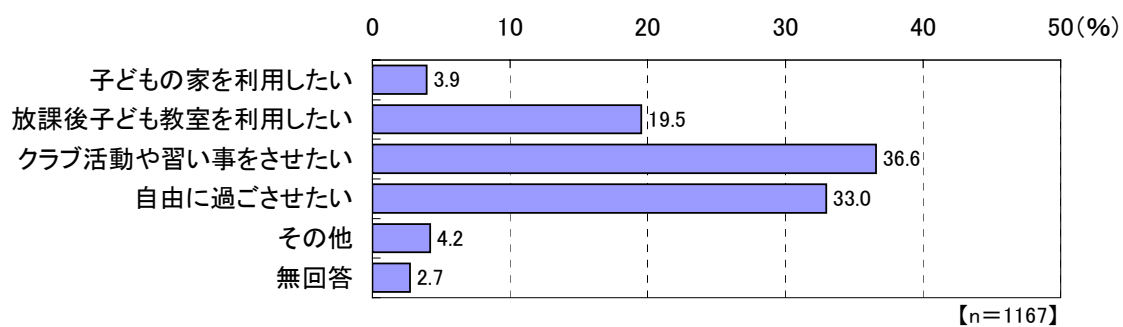
放課後子ども教室の利用の意向は、「学区内にあったら利用する」(40.2%)が最も多く、利用したいと「思わない」(35.6%)、「思う」(21.1%)となった。

利用したいと思う回答者の1週間あたりの利用希望日数は、「週1~2日」(59.8%)が最も多く、以下、「週3日」(27.2%)、「週5日」(7.3%)と続いた。

6.4 小学4年生以降の放課後の過ごし方

Q13-5 あて名のお子さんの小学4年生以降の放課後の過ごし方について、一番近い考えはどれですか。

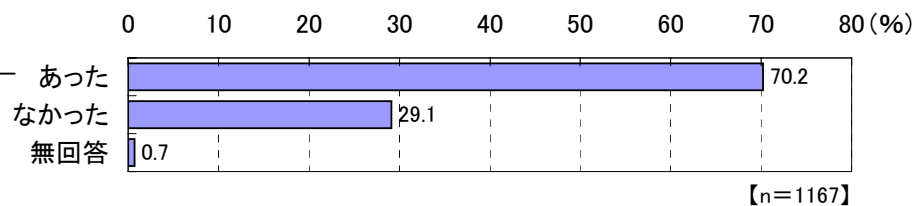
(〇は1つ)



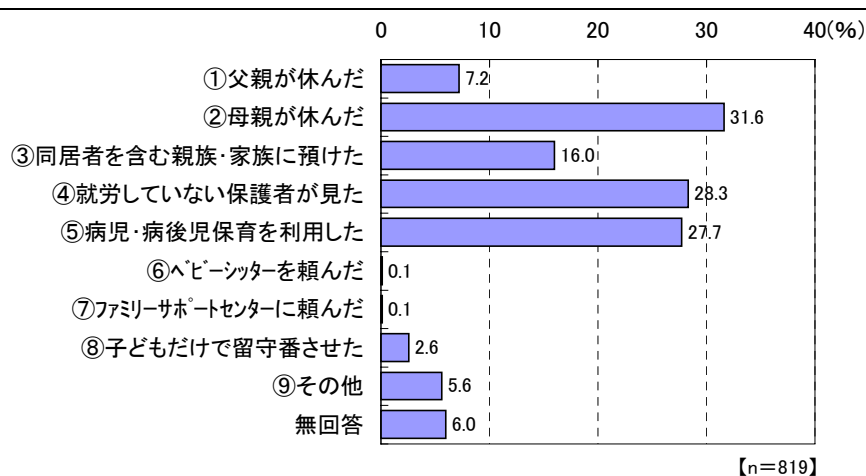
子どもに対する小学4年生以降の放課後の過ごし方についての希望は、「クラブ活動や習い事をさせたい」(36.6%)が最も多く、次いで「自由に過ごさせたい」(33.0%)、以下、「放課後子ども教室を利用したい」(19.5%)、「子どもの家を利用したい」(3.9%)と続いた。

6.5 学校を休んだことの有無と対処方法

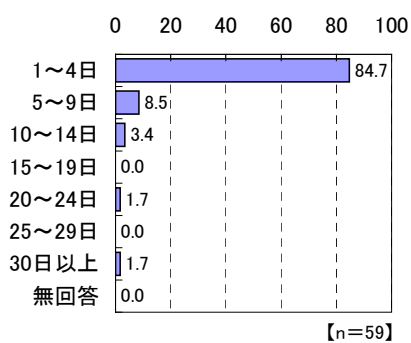
Q13-6 この1年間に、あて名のお子さんが病気やけがで、学校を休んだことはありましたか。



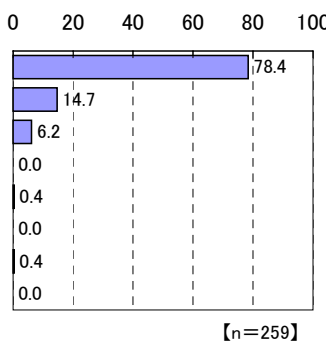
<病気やけがで学校を休んだことの有無>



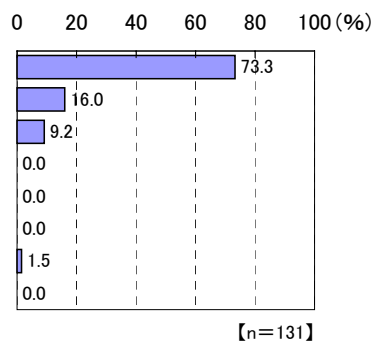
<対処方法>



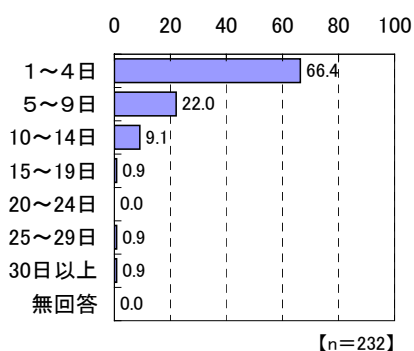
①父親が休んだ日数



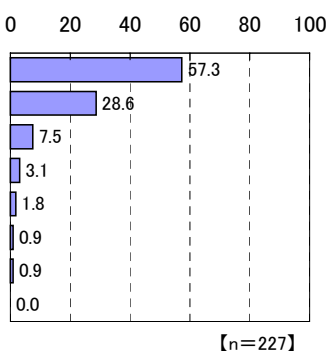
②母親が休んだ日数



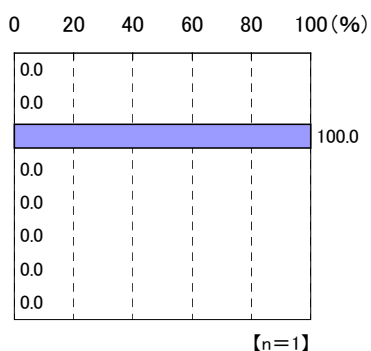
③同居者を含む親族・家族に預けた日数



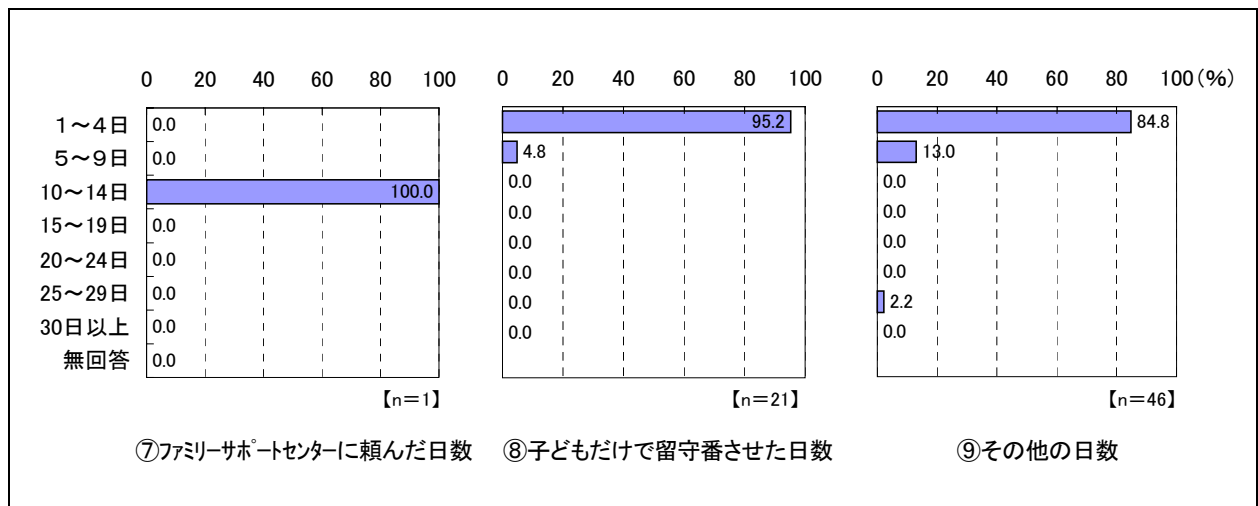
④就労していない保護者がみた日数



⑤病児・病後児保育を利用した日数



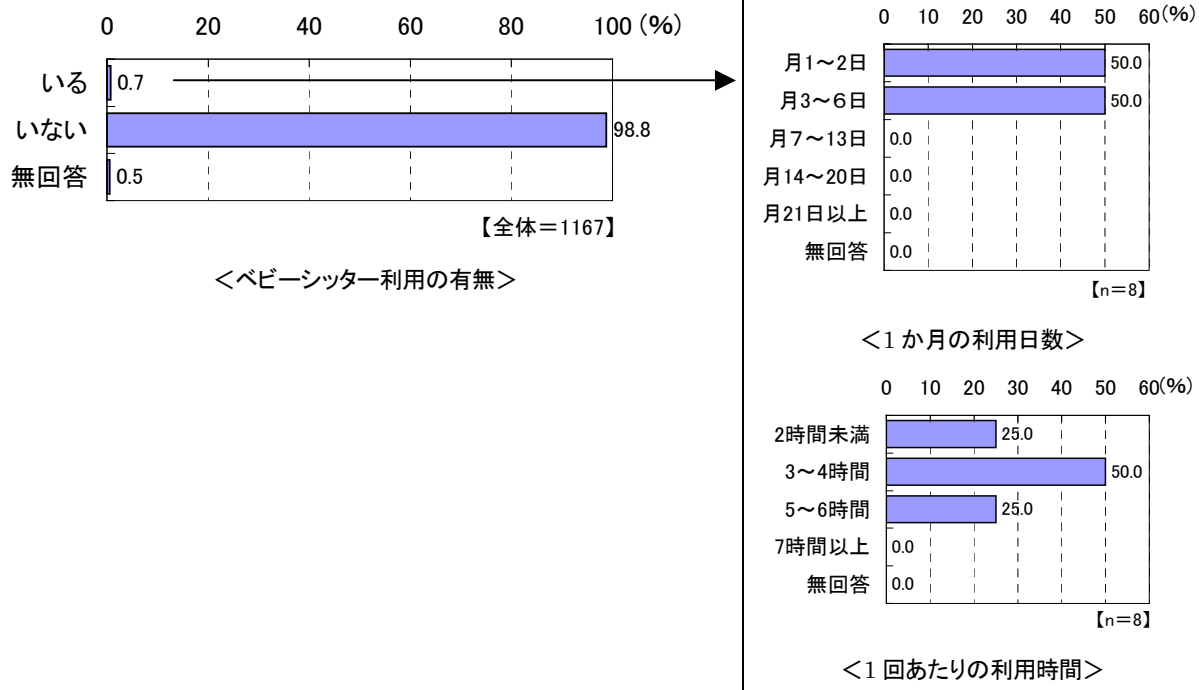
⑥ベビーシッターを頼んだ日数



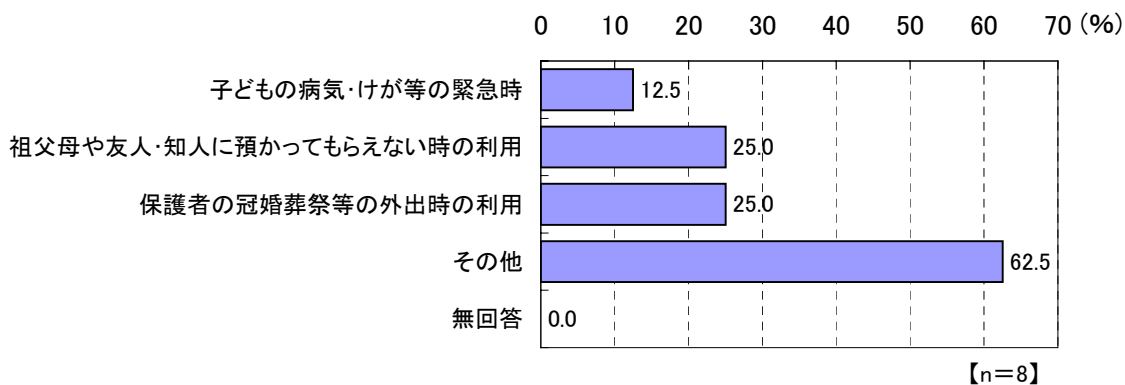
この1年間に子どもが病気やけがで学校を休んだことが「あった」は70.2%、「なかった」は29.1%となった。対処方法として最も多かったのは「母親が休んだ」(31.6%)で、「就労していない保護者がみた」(28.3%)、「病児・病後児保育を利用した」(27.7%)と続いている。

6.6 ベビーシッターの利用状況

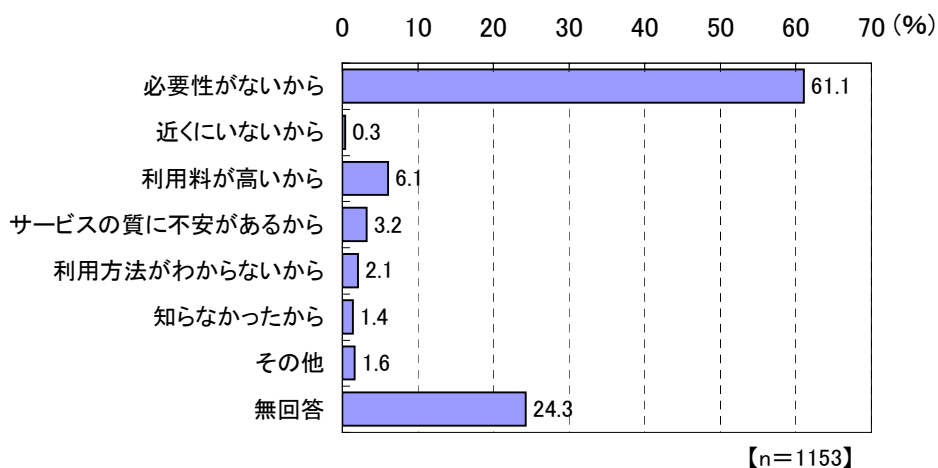
Q13-7 あて名のお子さんは、ベビーシッターを利用していますか。併せて「いる」方は利用日数や目的を、「いない」方はその主な理由をお答えください。



どのような目的で利用していますか。(あてはまるものすべてに○)



利用していない主な理由は何ですか。(○は1つ)



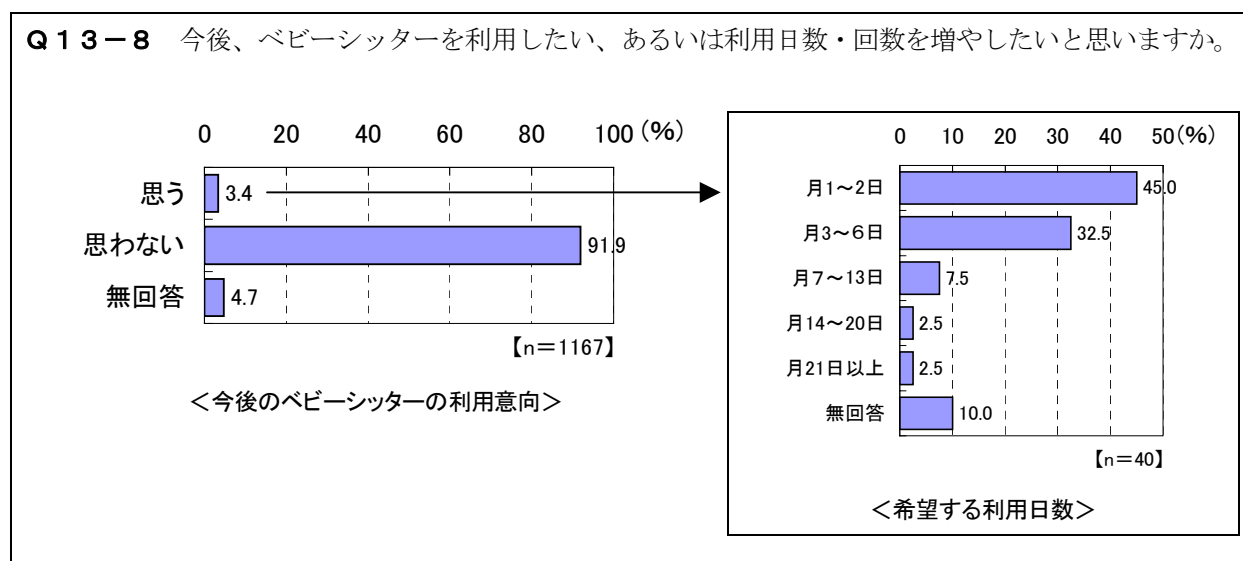
ベビーシッターの利用状況は、利用して「いない」(98.8%)が大多数を占め、利用して「いる」は0.7%(1167人中8人)であった。

利用して「いる」回答者の、1か月の利用日数は「月1~2日」「月3~6日」(ともに50.0%)で、1回の利用時間は、「3~4時間」(50.0%)が最も多い結果となった。

利用する目的としては、「祖父母や友人・知人に預かってもらえない時の利用」「保護者の冠婚葬祭等の外出時に利用」がともに25.0%であった。

一方、ベビーシッターを利用して「いない」理由としては、「必要性がないから」(61.1%)が最も多く、以下、「利用料が高いから」(6.1%)、「サービスの質に不安があるから」(3.2%)となった。

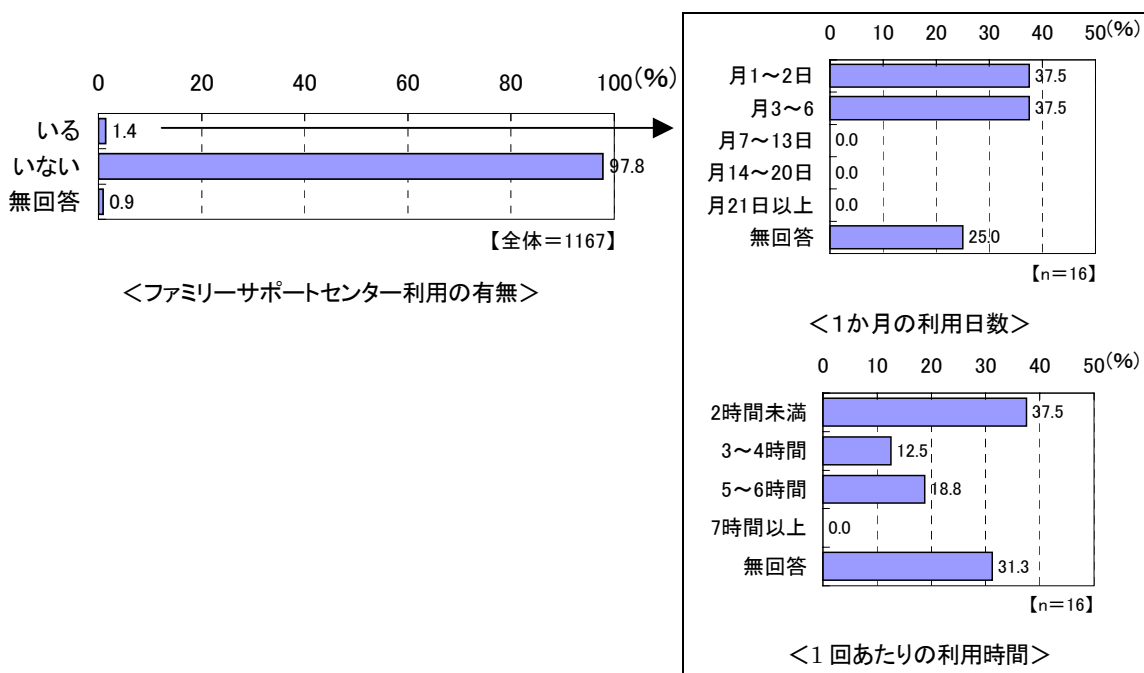
6.7 今後のベビーシッターの利用意向



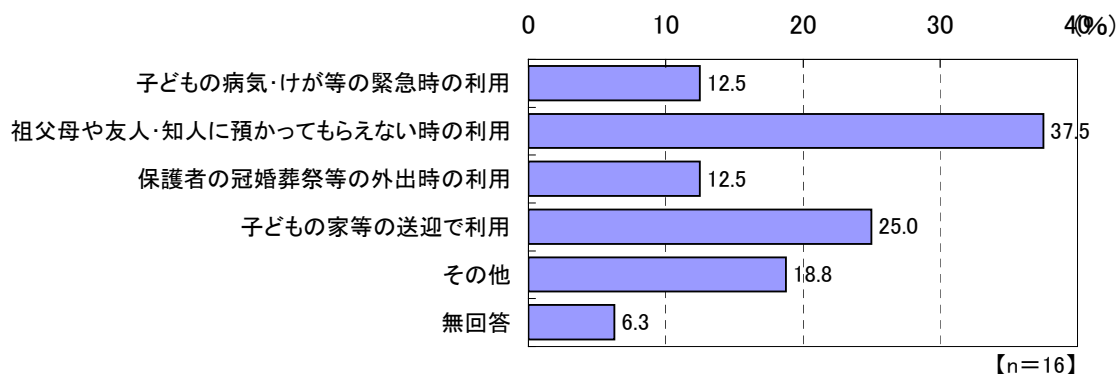
今後のベビーシッターの利用意向として、利用したい、または利用日数・回数を増やしたいと「思う」は3.4%で、希望する利用日数は「月1~2日」(45.0%)、「月3~6日」(32.5%)と続いた。

6.8 ファミリーサポートセンターの利用状況

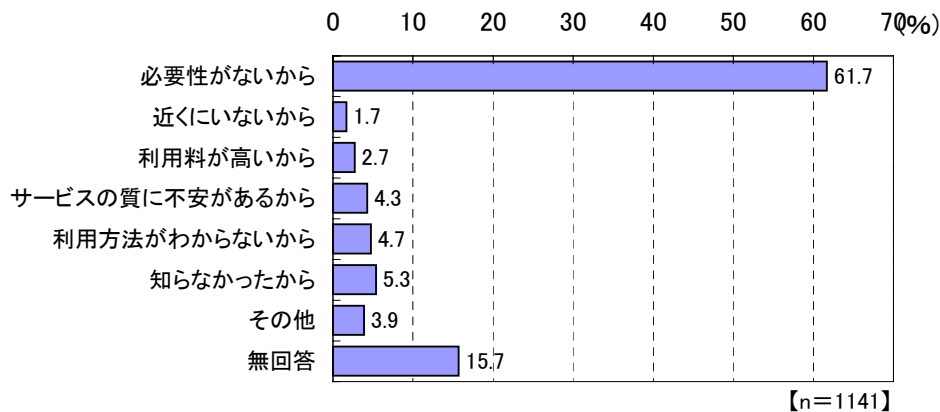
Q13-9 あて名のお子さんはファミリーサポートセンターを利用していますか。併せて「いる」方は利用日数や目的を、「いない」方はその主な理由をお答えください。



どのような目的で利用していますか。(あてはまるものすべてに○)



利用していない主な理由は何ですか。(○は1つ)



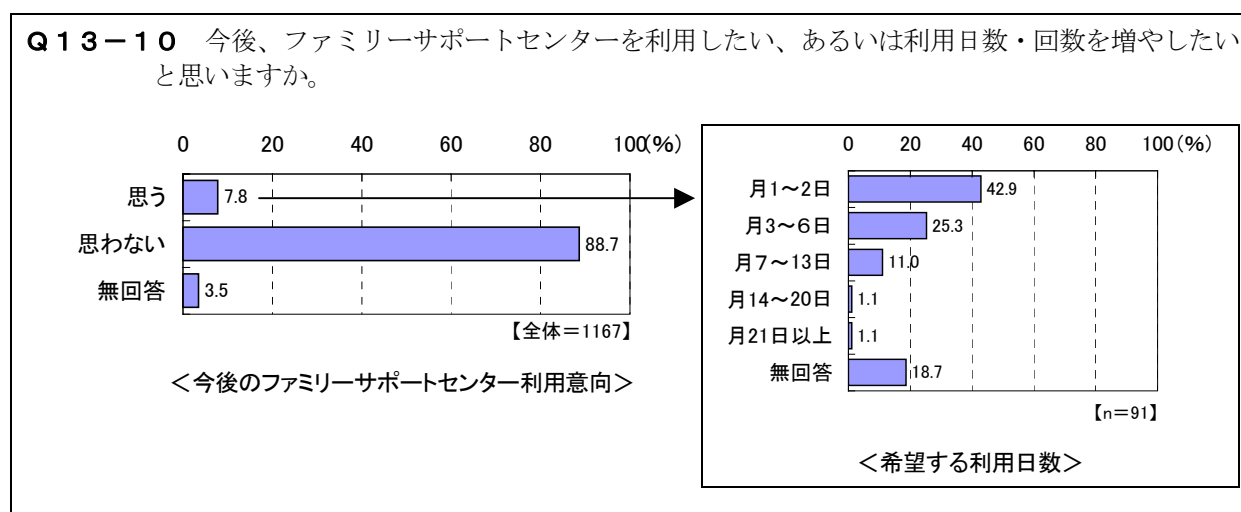
ファミリーサポートセンターの利用状況は、利用して「いない」(97.8%)が大きな割合を占め、利用して「いる」は1.4%(1167人中16人)であった。

利用して「いる」回答者の、1か月あたりの利用日数は「月1～2日」「月3～6日」（ともに37.5%）となった。1回あたりの利用時間は、「2時間未満」（37.5%）が最も多く、「5～6時間」（18.8%）、「3～4時間」（12.5%）と続いた。

利用する目的は、「祖父母や知人・友人に預かってもらえない時に利用」（37.5%）が最も多く、「子どもの家等の送迎で利用」（25.0%）と続いている。

一方、ファミリーサポートセンターを利用して「いない」理由としては、「必要性がないから」（61.7%）が最も多い割合を占め、以下、「知らなかったから」（5.3%）、「利用方法がわからないから」（4.7%）と続いている。

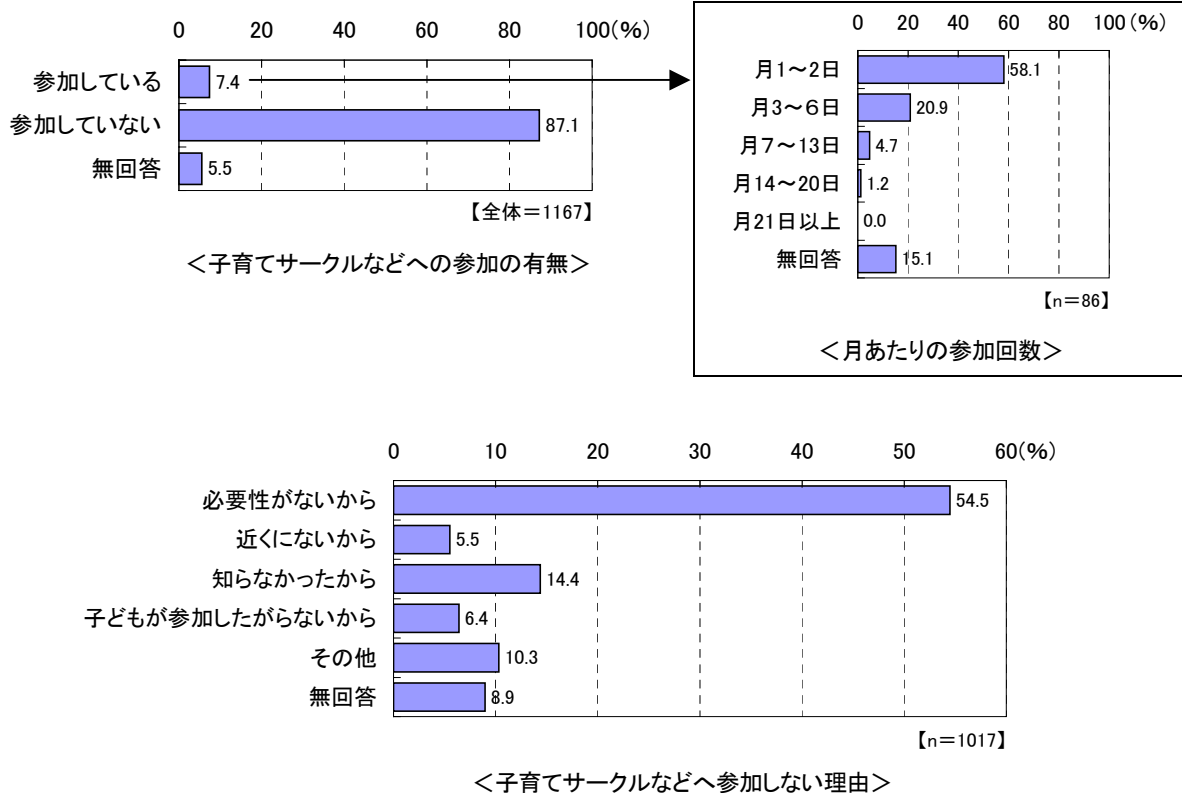
6.9 今後のファミリーサポートセンターの利用意向



今後のファミリーサポートセンターの利用意向として、利用したい、または利用日数・回数を増やしたいと「思う」は7.8%で、希望する利用日数は「月1～2日」（42.9%）、「月3～6日」（25.3%）と続いている。

6.10 子育てサークルなどへの参加状況

Q13-11 地域住民による子育てサークルなどの自主的な集まりに参加していますか。参加している方は日数を、参加していない方はその主な理由をお答えください。

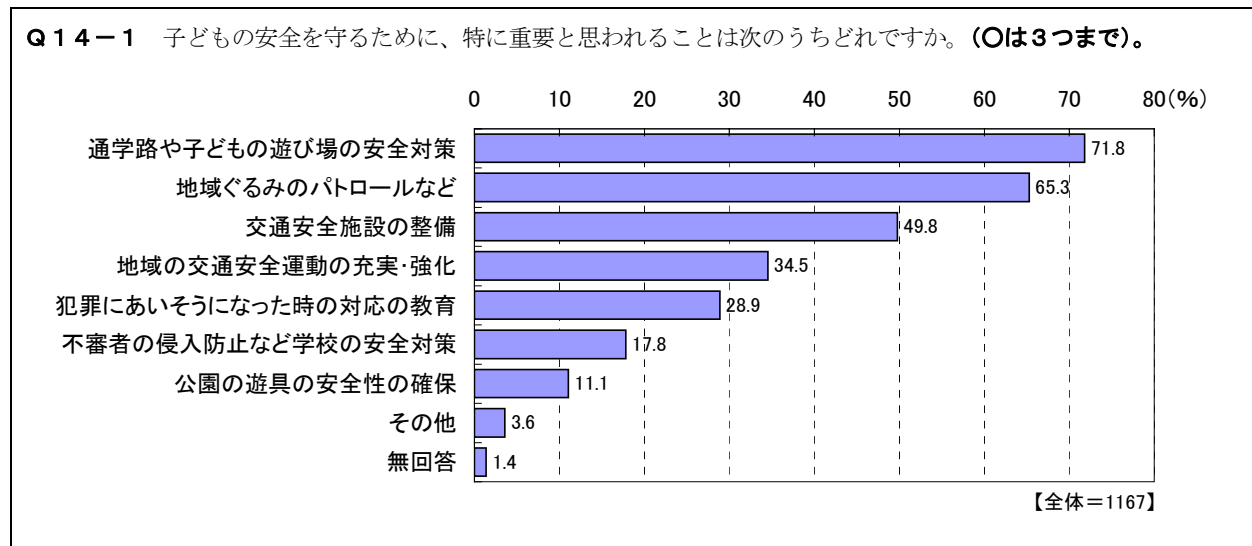


地域住民による子育てサークルなどに、「参加していない」(87.1%)が「参加している」(7.4%)を大きく上回る結果となった。参加者の参加回数としては「月1~2日」(58.1%)で最も多く、次いで「月3~6日」(20.9%)となった。

一方の、「参加していない」理由としては、「必要性がないから」(54.5%)が最も多く、以下、「知らなかったから」(14.4%)、「子どもが参加したがるから」(6.4%)となっている。

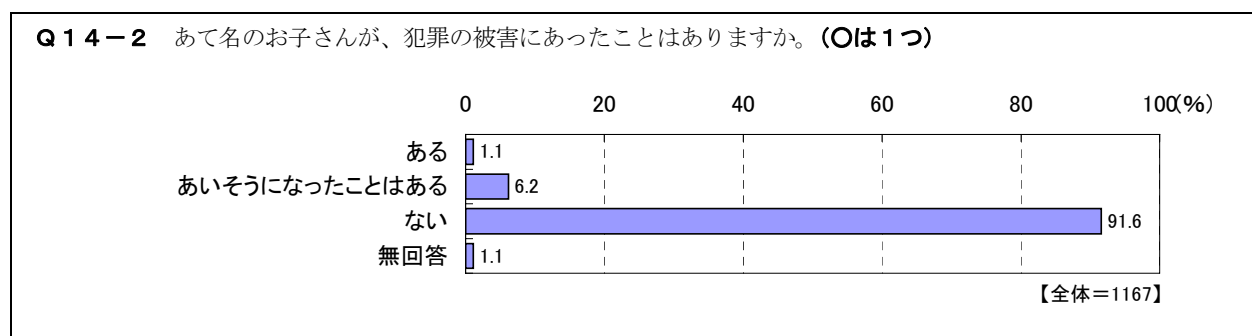
第7章 まちづくりや職場環境など幅広い子育ての環境や社会全体としての次世代育成支援（子育て支援）のあり方について

7.1 子どもの安全を守るために特に重要と思うこと



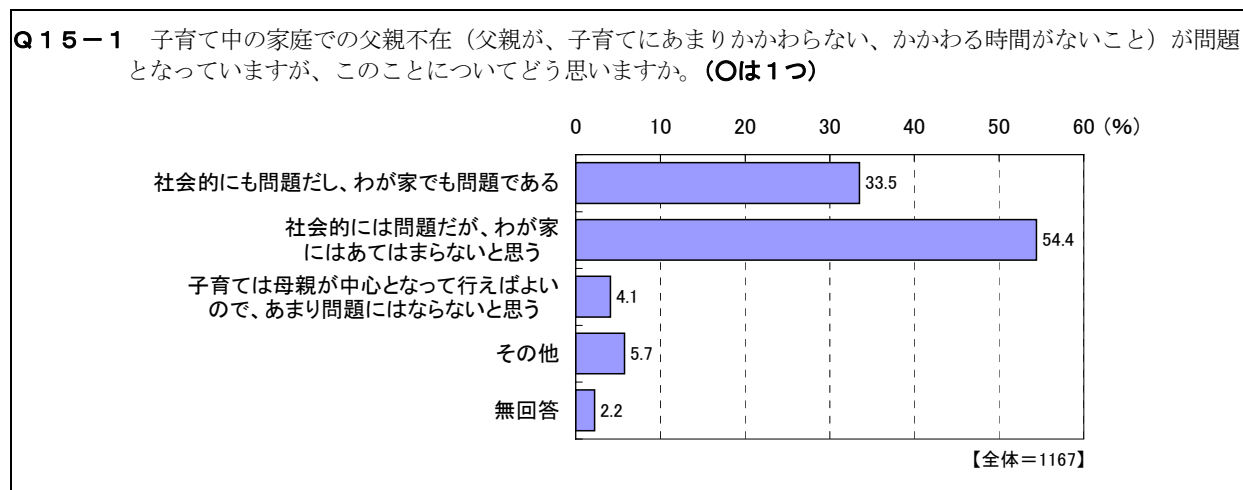
子どもの安全を守るために特に重要と思われることとして、最も回答が多かったのは、「通学路や子どもの遊び場の安全対策」（71.8%）で、以下、「地域ぐるみのパトロールなど」（65.3%）、「交通安全施設の整備」（49.8%）、「地域の交通安全運動の充実・強化」（34.5%）と続いた。

7.2 子どもが犯罪の被害にあった経験の有無



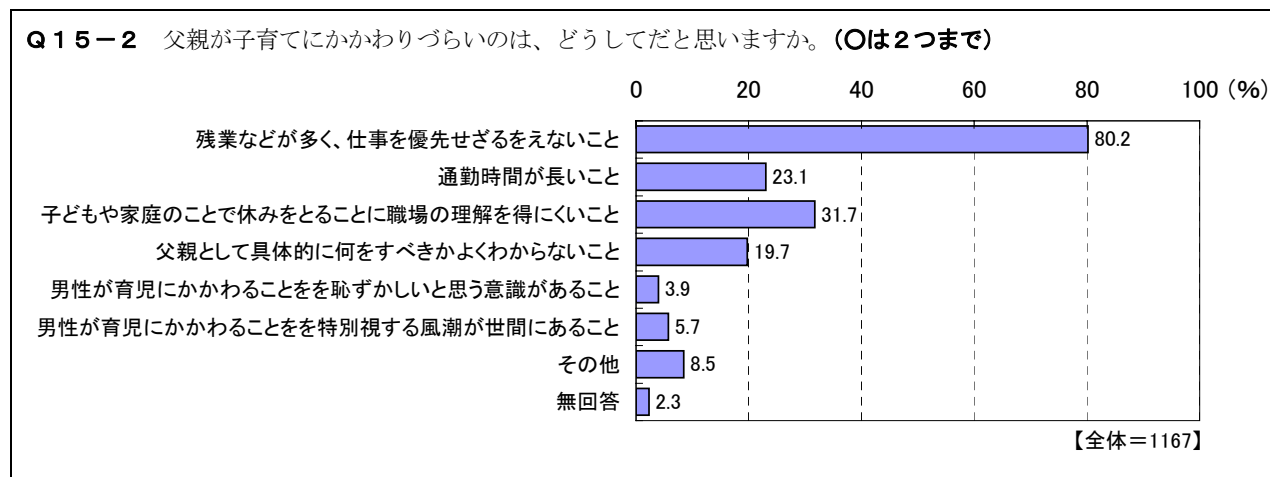
子どもが犯罪の被害にあったことが「ある」は 1.1%、「あいそになったことはある」は 6.2%であった。

7.3 子育て中の家庭の父親不在について



父親不在の問題について、「社会的には問題だが、わが家にはあてはまらないと思う」（54.4%）と考える回答者が最も多い結果となった。次いで「社会的にも問題だし、わが家でも問題である」（33.5%）となり、「子育ては母親中心で行えばよいのであまり問題にはならないと思う」（4.1%）は少ない割合であった。

7.4 父親が子育てにかかわりづらい理由



父親が子育てに関わりづらい理由は、「残業などが多く、仕事を優先せざるをえない」（80.2%）が最も多く、次いで「子どもや家庭のことで休みをとることに職場の理解が得にくいこと」（31.7%）、「通勤時間が長いこと」（23.1%）、「父親として具体的に何をすべきかわからないこと」（19.7%）と続いている。